

參考資料

(1) 佐波川流域の調査概要

【国土交通省山口河川国道事務所】

平成 21 年 7 月 中国・九州北部豪雨災害における佐波川流域の調査（聞き取り）概要（1）

時刻	勝坂地区	下右田地区 A	下右田地区 B	田ノ口地区	和田裕地区
7月 21 日時系列（災害状況）					
~ AM 6:00		<ul style="list-style-type: none"> 全く気づかなかった 剣川を見たが、水位が高かった 裏の山に亀裂ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 朝方は雨が降るなと思った程度 朝は雷がひどかった 	<ul style="list-style-type: none"> 三谷川が 30 cm 残して土石流状態 朝から大雨であった 朝は雷がひどかった 	<ul style="list-style-type: none"> 雨は強く 梅雨明けかなあと思った 雷が鳴りよく降るなあと思っていた
~ AM 8:00	<ul style="list-style-type: none"> 剣川の水位が上がっているとは思った 雨の降り方がいつもと違うなと感じた 山からも水は出ていたが 9~10 時頃はまた水はきれいだっただ 	<ul style="list-style-type: none"> 谷川の水が濁っていたが剣川の水は綺麗だった 道路は排水口が土砂で詰まって水が溢れていた 車が泥水で流れ落ちて一軒先の道路を塞いだ 	<ul style="list-style-type: none"> 雨が激しく降っていた 雨、雷が鳴って裏の川を見た 	<ul style="list-style-type: none"> 土手を氾濫して道路へ水が流れ出した 最初は綺麗な水、濁りのない水であったが、直ぐに膝下辺りまできた 一時停電、山の崩れる音は聞いていない 	<ul style="list-style-type: none"> 樋門の水位があがっていて、逆流を始めた 雨粒ではなく、すべてがつながっているように雨を感じた 家の周りに空き缶などごみが流れ始めた 水はどんどん増えて、川になっていく
~ AM 10:00	<ul style="list-style-type: none"> 小さい石や砂が流れてきた 窓の外を見ると山が茶色になっていた 川が泥の濁り水になっていた 1階が浸水し始め 50 cm 位水がきた 道がグレー色の水が流れ、両側から茶色の水となって流れてきた 12 時少し前頃に雨が小降りとなった 	<ul style="list-style-type: none"> 剣川の様子を裏の戸から見たら、泥水が増えている 一気に前から土砂が入ってきて、庭が冠水 川がゴーゴーと濁流状態 鉄砲水が押し寄せ扉、ポンプも壊れた 一瞬のうちに 80 cm くらいまで水がきた 	<ul style="list-style-type: none"> 一時雨が止んで、水が引いた (10:30) 再度降り出した (11:00 頃) 初めは土色の濁り水だったが赤い濁水に変わり、田の中が濁流状態 滝の様に水が流れ込んできた 雨音が酷く、家人を呼びが聞えない 三谷川は砂が溜まっていて、川底が上がり水は溢れ出していた 	<ul style="list-style-type: none"> 前方、真尾のけ崩れを見て、振り返ったら、自宅方向も崩れていた 道に濁流がながれていた 西側に落石、溪流が出現しており、びっくりした 県道より山側が浸水しており、和田苑に入れなかった 	
~ AM 12:00	<ul style="list-style-type: none"> 屋前 262 号に水が流れていた 雨が強くても、音（例えばゴー）という音はしなかった 川の堤防は 20~30 cm 位余裕があった 262 号の向こう側の山がくずれた 	<ul style="list-style-type: none"> 橋が流され泥水が波打つ様に庭にきた 道路が上から泥水になって川の様に流れ落ちてきていた 土砂とガレキが凄く勢いで入り込んで、家も床ぐらいいままで泥水と土砂で埋った 屋前に流水が流れてきて、一気に土砂が入ってきた 道路の上から木屑、机、バケツ、ダンボール等が流されていた 道路の下の方から 1m の高さで水が上がってきた。 材木が立ったまま一本二本と何本も流れ、一気に土石流が津波の様にきた 	<ul style="list-style-type: none"> 一階部分にも土砂が入ってきた 「ボコボコ」と音がして、外を見たら川が溢れていた 道路から水が入ってすぐに床下浸水 道路が川のようになって波打っていた 軽四や大木が流れてきていた 水道や電気がストップ 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな音がし、道路から土石流が家の敷地内に入ってくるのが見えた 小豆色の水が流れ、40cm 位の土砂の混じった水が流れてきた チヨロチヨロ土間に水が裏山から入って、5 分位でドツと水が勢いよく入り物が浮かび始めた 砂防ダムの壊れる音は聞えなかった 岩が一杯に話っていた処に水が溢れた 裏のサッシを破る「ドーン」と言う音と同時に砂単位で一気に水がきた 床下の収納庫がボコッと浮き上がった 家に帰ると約 20 分の間に床上 20cm 位の水が来ていた 	<ul style="list-style-type: none"> 「ゴロゴロ」と雷と違うような音がした 家の中に土砂が流れ込んできた 大きな音がしたので皆が外に出て見えた 水の勢い強くとっても早かった。水は泥水だった 水が車に入るかもという状態だった
PM ~	<ul style="list-style-type: none"> 土石流が来て、車は持ち上げられた 2階にも 1.0m くらい土砂が入った 家の周りに砂が積もった 	<ul style="list-style-type: none"> 剣川の土手の方は、橋にガレキ、土砂がいっぱいになっていた 部屋の前が、砂で山になった 	<ul style="list-style-type: none"> ドーンという音がして家のドアが壊れ音と同時に土砂が入ってきた 川幅も田の水路も狭いので詰まって田に溢れ出した 胸の下辺りまで泥水 最初、音と泥くさい匂いがした ゴォーという音と雨の音は怖かった 	<ul style="list-style-type: none"> 水が浸水してきて、10センチくらいになった（床下浸水） 谷川を越して水が家の中に流れ込んできた 水がどんどん増える、怖さが増した 	

平成 21 年 7 月中国・九州北部豪雨災害における佐波川流域の調査（聞き取り）概要（2）

7 月 21 日時系列（災害状況）

時刻	奈美地区 A	奈美地区 B	松ヶ谷地区	真尾地区	公共施設
～ AM 6:00	<ul style="list-style-type: none"> 朝から大雨、雷、停電になる 「通勤出来ない」雨の降り方の異常さ 	<ul style="list-style-type: none"> 道路の水位は 10cm 位で歩けた 朝市をやっているが、それ程危険は感じなかった 	<ul style="list-style-type: none"> 早朝出勤の時、増水はしていなかった 雨が酷かった 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な激しい雨 	<ul style="list-style-type: none"> 雨が非常に強く降る
～ AM 8:00	<ul style="list-style-type: none"> 溝の上蓋を取り外そうとした時、後方からドット水がきて押し流された 敷地内が海のように水が溜まった 道路の一部が水没しており、歩行者の膝まで水位があった 義母が「山がくずれぬ音」「ゴ-という音」聞いたとの事 雨は降っていないくて、出かけるのに傘も持って行かなかった 	<ul style="list-style-type: none"> 道路の水位は長靴より上になった 雨は酷かったけれど、今までと同じと思った 川から水を引いているので、井手を見に行った時は、かなり水は増えていた ドアがあるが、水の勢いで倒されてしまっ 	<ul style="list-style-type: none"> 木が突っ立った状態で流出し、橋の所で堰き止められた 堰き止められた事により、一気に水が溢れ、押し流される 	<ul style="list-style-type: none"> 真尾川の水位が増えてきた 継続的な雨が 10 時位まで降る 	<ul style="list-style-type: none"> 雨の勢い強く、続く
～ AM 10:00	<ul style="list-style-type: none"> 谷川の土砂が西側に流れ込んだ 床上 80 cm まで土が入った 家財道具も電化製品も流された 家の横の川は土砂で埋まり、家の方に流木、土砂が流れ込み始めた はじめは綺麗な水だったが、そのうち茶色の水が流れてきて、みるみるうちに道路、庭まで溢れてきた 	<ul style="list-style-type: none"> 「ゴロゴロ」と石の当たる変な音がした 川が土砂で埋まり、増水、川に砂が盛り上がった 雨が上がった時、川に水が一杯流れ、車が流れて行った 濁流が来る 2～3 分位前に、雲のような霧が地面 1m 位の高さ上がった 蟻がすごく飛んだ 橋が流木で堰き止められ、家の裏から水が押し寄せた、車も流された 	<ul style="list-style-type: none"> 水深 60 cm 位 裏から「バキバキ」と木の折れる音が聞こえた 一気に流木や水が押し寄せてきた 雨が一時止んだ。その時、橋（藤本商店）はぎりぎりだった 旧小学校のグラウンドが一面水だった 	<ul style="list-style-type: none"> 雨の降りが少し落ち着く 昼食時くらいに高砂裏山の土砂崩れが起き、真尾川から溢れた水や土砂が家の中に入ってきた 11 時過ぎ、真尾川の水位がどんどん上がってきた 	<ul style="list-style-type: none"> 雨は継続する
～ AM 12:00	<ul style="list-style-type: none"> 道路は、家の敷地より高い所に有る為、まるでナイアガラの滝の様に水と土砂が流れ込んで来た 雨量は激しさを増し、道路が「川」と化しており、我が家は床下浸水 停電 十七谷川バス停付近は、大変な事に！砂、水で考えられない状態 通行止めになっていて、歩いて帰って来ると、家の上を通っている道路から水と土砂が流れ込んで来た 	<ul style="list-style-type: none"> 「ゴーツ」という地鳴りがした 前の道路に流木が、旧小学校から流れてくる 高さが 1.5m 位ある川が、土砂で埋もれた 橋の所を車やガレキが塞いで、水が 5m 位吹上られた 道は 1m 位の水位があった 山水が多く出始め溝から吹き上げ、そのうち濁った水が始め、11:50 頃山が崩れ家の敷地内に土砂が流入した 	<ul style="list-style-type: none"> 庭からも道路からも土砂が流れ込む、床ぎりぎり 停電、電話は不通 	<ul style="list-style-type: none"> 水などが入らないように板などで防ごうとするが、無駄だった 川から溢れだすので、トイレ等でトイレを作るが効果なく、どんどん入ってきた 	<ul style="list-style-type: none"> 少し小降りになる 矢警ヶ岳が崩れ落ちているのを発見 停電で水が出なくなる
PM ~	<ul style="list-style-type: none"> 下水の溝が詰まって、水が出なかった 玄関の所に土が来ていて入れなかった 家の横の道は土の道路だったけれど、水で土が抉り取られていた 水と土砂が家の中に流れ込んだ 夕方ようやく水が引き、粘土質の土砂が道路、庭一面に積もっていた 	<ul style="list-style-type: none"> 新南陽の国道も車のタイヤ半分位の水位、緑石が見えない状態 川は土砂で潰れ、向こう岸と面一になっていて 	<ul style="list-style-type: none"> 道路の水が少し引き始めた 方近くなって車で町の方の向こうが土砂崩れや水没していて不通が多い 一時、水が減ることも増すこともなく流れていた 	<ul style="list-style-type: none"> 10:30 雨がまた強く降りだした 6:30 電気が通電する 	

平成 21 年 7 月中国・九州北部豪雨災害における佐波川流域の調査（聞き取り）概要（3）

7 月 21 日時系列（情報伝達）

時刻	勝坂地区	下右田地区-A	下右田地区-B	田ノ口地区	和田峪地区
～ AM 6:00		・ 警報（天気）が出ていたので、外出を取りやめ家に居た	・ 大雨の情報はテレビを見て分かった		・ よく降るので、自らインターネットで水位を確認
～ AM 8:00		・ 水がきたから 110 番して「すぐ来てくれ」と要請したら来てくれた	・ 水がきたから 110 番して「すぐ来てくれ」と要請したら来てくれた		・ 市役所の担当者と話をして、水位があがっていたので専門の対応した ・ 市役所へ状況を報告し対処を電話したが、返答がない
～ AM 10:00	・ 自治会の方へ水が出てあぶないのでは・・・と言いにいった ・ 昼前には、消防署の人が避難を呼びかけて回っていた	・ 防災サイレンは聞こえなかった ・ 役員の声掛けはない ・ 上の人が車で来て、上が崩れていると知らされた ・ 副自治会長だったので、周りへ避難勧告した、行政からでは無かった ・ 土曜がい日は自治会から連絡	・ 昼までに自主避難を勧め、地域の者で手分けして各家庭に回って知らせた ・ 濁流となって危険と判断し消防署に通報、すぐ来てもらった ・ 副自治会長だったので、周りへ避難勧告した、行政からでは無かった ・ 土曜がい日は自治会から連絡	・ 都合 3 度市役所へ状況を報告し対処してくれるよう電話したが、返答がない ・ 怖いので市へ 3 回連絡したが、3 回とも違う方が対応され、住所・氏名・電話番号を聞かれただけだった	
～ AM 12:00	12:00 頃 トンネルの方から大きな声で「土石流が来る」と言っている人がいた	・ 11:00 頃 自治会の方が避難するように呼びかけがあった ・ 昼前には、消防署の人が避難を呼びかけて回っていた	・ 21 日警察署員が「大丈夫ですか？」と一軒ずつ声をかけていた	・ 自治会長が役員を集めて相談され、田の口自治会館へ自主避難を呼びかけた	・ 地区委員へ電話連絡して状況を聞いたが、何も無い様子だった
PM ~	・ 何の情報も無いので家にいた 3:00 頃 避難勧告 まだ家にいた 12:30 頃 自治会長さんが家を回り「縁石の上に水が来たから避難して下さい」 14:30 頃 水が引いてから避難勧告あり ・ 夕方、消防署の方から「裏山に亀裂が入っているので緊急避難するように」 ・ 消防署、警察署の方が見回り	・ 笑顔ステーションの方（羽嶋松翠園）の社員が見回りに来て下さった ・ 14:30 頃水が引いてから避難勧告 ・ 夕方、消防署の方から緊急避難するようにとの連絡 ・ 避難勧告がないので状況が分からず、PM3:00 頃は近所の奥さんどうしようものかと話していた ・ 夕方市役所が避難勧告を出した	・ 市へ通報を何度もしなかなか来ず、夕方 6:30 過ぎてやっと役所の人に来てくれた ・ 動きが取れないでいると、近所の人がレスキューに知らせさせて下さり、ポート 15:00 頃救出される ・ 表の道路まで水が溢れ出したのを一軒先の人が気づいて声をかけてくれた	・ 孫から電話があり、「避難の準備をするよう」言われた ・ テレビのニュースで高砂などの状況を見て、安否の電話があり、家に居るよう言われた ・ 消防署へ連絡したが、262 号・高砂へ出動中のため対応できない。とにかく、2 階があるなら 2 階にいてくださいとのことだった	
備考	・ 警報器は役に立たず避難勧告も無かった ・ 警報器は雨足（雷）の為、全く聞こえなかった ・ 避難勧告は無かった ・ 夕方市役所が避難勧告を出した ・ 情報がまるで届かないので、周りの状況がまるで分らなかつた ・ テレビ等で色々言われたようになって、23 日に広報車のサイレンの試験放送が ・ 一ヶ月前勝坂のサイレンの試験放送があったが、その時間えないと連絡し普段でも聞こえなかつたら今回も全く分らなかつた	・ 自治会の役員さんとの連絡がよくとれていた ・ 消毒を頼んだ家だけやって、電話で頼まない、市からは来てもらえなかつたし、石灰などの配布も、ちゃんと出来ていなかった ・ 24～26 日に避難勧告が出た ・ 24 日に近所の人や班長が避難するよう呼びかけていた ・ 石灰や砂袋の配布があったようだが、何の連絡もないので、行った時は無い状態だった ・ ガレキの撤去で災害対策本部、クリーンセンターにと、たらい回しにされた	・ 公民館には放送機能があるが、全く聞こえなかつた ・ 防災サイレンも聞こえなかつた ・ 公民館には、テレビも情報も無かった ・ 新聞は後から固めて入れてくれた ・ 一週間毎日状況を見に出るから、他の自治会長同士の連絡も無理だった ・ 防災の本部を立てられても連絡がなかつた ・ 街頭放送はゴミの収集があると放送されたくらい ・ 防災行政無線は活かされなかつた。災害後始めて放送を聞いた	・ 情報は、まったくなくなかつた ・ 排出土砂のことで、後日市役所に電話したが、対応されず ・ 向隣の若い人と連絡を取りながら、避難のタイミングについて話していた ・ 市役所から情報提供もなく、今後の説明もない、しかし、あの状況では市役所に期待しても無理だと思う ・ 当日、避難については公の連絡などは無かつたと思う	

平成 21 年 7 月中国・九州北部豪雨災害における佐波川流域の調査（聞き取り）概要（4）

7 月 21 日時系列（情報伝達）

時刻	奈美地区 A	奈美地区 B	松ヶ谷地区	眞尾地区	公共施設
～ AM 6:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A 会長から連絡有り。（小学校）奈美緊急連絡網でサマーチャレンジの中止を連絡する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝、農協の職員 2 人が「川の水が溢れて危険なので、公民館へ避難して下さい」と声掛けがあった 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝から夕方までの情報が多すぎて、順番が悪い出せない ・ 本chool行事（サマーチャレンジ）中止の判断をし、6:37 に「まちこみメール」で知らせた
～ AM 8:00		<ul style="list-style-type: none"> ・ 出張所へ電話して、土嚢を持って来てもらう様に連絡した ・ T V の天気予報で雨がひどく降るといふのを聞いた 			8:00 ダム放流通報水防警報第 1 報
～ AM 10:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 怪我をしているので、警察や救急車を呼んだがなかなか来ない ・ 11:00 頃から 19:00 頃まで停電となり、情報源が全く無かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近所の人と川の上流の方に行って、川の水がこんなに増えていると話した 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 濁流を挟んで向こうとこっちで声を掛け合うが、全く聞こえなかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図（校区内）に情報が入った箇所にシールを貼る 8:35 市教委からダム放流通報第 2 報 9:30 市教委は全学校に登校の状況を電話、本校は市教委へ連絡済み 	
～ AM 12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山口にいた処、子供から「至急帰れ」と連絡有り 	<ul style="list-style-type: none"> ・ サイレンが鳴ったのが、昼なのか、避難のサイレンなのか？は分らない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供から電話で、家の地域の状況を初めて知って早速した ・ 消防団の人が、山が崩壊したので避難するように言われた ・ 下の子が小さいのでヘリコプターを要請し、子供と年寄りが運ばれた ・ 夕方警察の人が「避難しませんか？」と尋ねてきた 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町へ避難しようと思うが、NHK などから高砂の様子を聞く電話が次から次へとかかってくるので、なかなか出られなかった 3:00 避難者が次々来られるので、学校教育課へ連絡、対策本部が立ち上げられたことを知る 3:30 市役所からようやく 2 名来て、交通が遮断されたことを知る 21:30 児童全員無事確認 	
P M ~	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥子からの電話で、二階に上がる様いわれ、上がって様子を見ていた ・ 自治会から避難の通達があり、班長なので近所へ知らせて回った ・ 自治会から避難勧告の知らせ、同時に広報車も走っていた ・ 停電 T V からの情報得られず 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消防団の人から、逃げる様言われた ・ 夕方になって消防団から避難する様言われた ・ 勧告が出たと班長さんからの連絡があった ・ 屋過ぎ位に避難勧告の放送があったと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報が入らなかつた ・ 一年位前に調査が入り、危険区域だと知つた ・ 前の道路が土嚢で埋まっていたので車が入れず、市に何度も電話して、ようやく 8 月末位に応急処置をしてくれた ・ 人が来られて、ボランティアの依頼書を渡したが、何の返事も無い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何処へ行ってもお願い（ボランティア）するの、解らなかつた 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 松ヶ谷に崩落があった時、自衛隊へ救助の要請を入れたが、勝塚へ救助に行っているという事で、ヘリコプターでの救出だけで、人員は「ライフケア高砂」へ動員された ・ 24 日頃市役所、小野公民館、小野小学校、眞尾公会堂で共通の電話が設置 ・ 情報の整備、情報の 1 本化、行政からの情報が不足
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 固定電話がつかならず、携帯電話も電波が悪かつた ・ 情報が伝わり難い。避難指令が出ている地区に 1 件 1 件訪ねて伝達しなければならなかつた 				

平成 21 年 7 月中国・九州北部豪雨災害における佐波川流域の調査（聞き取り）概要（5）

時系列（自主避難）

時刻	勝坂地区	下右田地区-A	下右田地区-B	田ノ口地区	和田峪地区
～ AM 6:00		・全く気づかなかった	・家でテレビを見ており、普段通りの生活をしていました	・娘は、何とかが車で出勤した	
～ AM 8:00	・朝食後片付けもせず身の回りの物を用意、リュックサックやカバンに気付くまま入れた	・同じ敷地内にある孫夫婦の家でひ孫2人が遊んでいたため、泥水の中を自分の方に移した	・奥さんは一人で普段通り過ごされた	・奥さんは一人で普段通り過ごされた	・自宅に一人でなく、お嫁さんが一緒にいたと思う
～ AM 10:00		・妻が寝たきりの状態でどうしようかと考えていた	・雨に気づかず、昼寝をしていた	・雨に気づかず、昼寝をしていた	・田圃のそばの草取りをしていた
～ AM 12:00	・1階はだめだと思っ、お父さんと2人2階の川の上流側の部屋にいた	・自治会の人が避難するように呼びかけがあったので、右田中学校へ避難	・急いで家族が2階へ上がった	・別棟の姉夫婦は、兄はデイサービスに出かけ、姉は近くの家に自主避難した	・帰宅したとき、祖母と子どもは土手にいて、祖父は、手伝いに行っていた
PM ～	・心配して右田中に探しに来た親戚の人が、自分たちがいないのに気づいて消防の人を連れて家に来て、歩いて右田中へ避難した	・近所の方12～13人が集まって初め会館に避難したが危ないとのことで、佐波小学校に入った	・犬を飼っているため、避難所へ行かず、21、22日の2日間は車の中で泊まる	・しばらく何が起こったか分からず、ボーとしていた	・大切なものをバックに入れて逃げる用意をしていた
	・2時頃隣人と一緒に公民館へ3人で避難した	・家族5人で市内の職場へ避難した（母が高齢なので避難所は無理）	・当日は水道も電気も大丈夫だったので家に居た	・娘さんに電話して助けを求め、娘さんから助けが向かっているかと教えてもらおう	・旅行中の娘よりテレビのニュースで高砂などの状況を見て、安否の電話があり、家に居るよう言われ、孫が迎えに来た
	・高齢なので市内の親戚宅へ行った		・母を2階へ避難させ、出勤していた息子に自宅へ帰る様連絡した	・逃げた	・避難所へは車もなく歩いていくには距離があるので、動かないでじっとしているしかないと思った
			・小さい子どもがいるので、公民館には行かず、親戚の家に一晩泊まった。	・娘さんには	・自治会長さん宅へとりあえず避難させてもらった
			・土間出入口の木戸を壊して外へ出ることが出来、会館へ避難した	・土間出入口の木戸を壊して外へ出ることが出来、会館へ避難した	
			・水が引くまで数時間2階に居た	・水が引くまで数時間2階に居た	
21日以降	・22日～24日 ホテル	・娘の所へ（今もずっと）	・避難所で眠れないのでホテル泊	・会館での2日間が眠れず、親戚宅へ行ったが、山口市も断水で、友人宅を頼りました	・年寄りなので家にいたいといったが、息子さんに連れられて、避難
	・ずっと親戚の家で世話になっている。9/6現在も屋間だけ帰って片付け	・3日後隣家の人が車を出して下さり、親戚に連れて行って下さった（足が悪いし、1人暮らしの為）	・妻は右田中に避難したが、盗難等の心配があったので自分分は家に残った	・避難は犬が2匹いるので難しい。預かってくれる所を捜し、やっと避難した	・1週間ぐらいは、玄関に避難するための荷物と犬を用意していた
	・高齢なので市内の親戚宅へ行った	・寝たきりなので市内の老人ホームに5日間、その後施設へ10日間いた	・避難所へは行かず、最初の2日は友人宅へ、ビジネスホテルへ、親戚の所へと移動した	・隣人は、家の中で3時間位助けが来るまで耐えていたと聞いた	・1階には寝ないで、2階に寝ていた
		・家の中を土砂が流れた為、実家で生活	・おじいさんが市内の病院に入院している	・公民館に行ったけれど、一杯だったの	・24日避難勧告により、娘のところに避難した
			・ので、病院へ2泊、主人と息子は、娘の所へ3日居た	・で、娘さんにホテルに連れられて行った	

平成 21 年 7 月中国・九州北部豪雨災害における佐波川流域の調査（聞き取り）概要（6）

時系列（自主避難）

時刻	奈良地区A	奈良地区B	松ヶ谷地区	真尾地区	公共施設
～ A M 6 : 00		<ul style="list-style-type: none"> ・朝は特別気にならなかった ・朝から雨が降っていたが、それほどひどくなかった 			
～ A M 8 : 00	<ul style="list-style-type: none"> ・雨の異常さに気付きながらも、用事で車にて外出する 	<ul style="list-style-type: none"> ・雨が酷いので、ズットと家に居た 	<ul style="list-style-type: none"> ・家に一人でいた 		
～ A M 10 : 00		<ul style="list-style-type: none"> ・主人と小学生の孫と3人で二階から川を見ていた ・11 : 50頃 一度目の土砂崩れの後近所の人と作業中「ゴーツ」という地鳴りがした為すぐ避難すると、12 : 30頃二度目の山崩れが発生した 			
～ A M 12 : 00	<ul style="list-style-type: none"> ・子供からの連絡で帰るが、バス停付近はもう土砂で大変な事に、車は4WDなので強行突破して家の前へ 	<ul style="list-style-type: none"> ・水や土砂の流れが酷いので、女の子は子供は道路に面した崖の上に3時間位居た。近所の人連と助け合って山越え、そして奈良の公会堂まで行った 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢の父親を連れて裏から塀を超えて出、水が引いてから近くの兄に家に避難 		
P M ~	<ul style="list-style-type: none"> ・息子からの電話で二階に上がる様に見えなかったので、上がって様子を見ていた ・泥のまま、21日は家で寝た ・「VJ」の音がけたましく鳴り響き、「これは大変だ！」とあわてふためく・・・が家の中で孤立化するしかありませんでした 	<ul style="list-style-type: none"> ・水が引いた時、軽トラックで娘さんの所へ避難 ・夕方に歩いて奈良の公民館へ避難 ・子供には小野小に行くように言って、主人と2人、21日は家に居た ・主人が土砂をどうにか除けて、胸までつきりながら2人で父親を助け出した。後5分運かったら流されていた？ ・公民館でなく小野小学校へ歩いて避難 ・勧告が出た後、母親だけ小野小へ避難 ・夜は旧公会堂に行った 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路が使えないので、山越えをせざるを得なくなった ・どうする事もできないので、溢れる水を観ていた ・NHKの中継車付近に近所の人と避難した 		
21日以降	<ul style="list-style-type: none"> ・にわとりや犬が居るので、家に居た ・娘の所に避難 	<ul style="list-style-type: none"> ・7/24位まで小野小に居たが、昼間は家の片づけに帰っていた ・親戚に避難した 	<ul style="list-style-type: none"> ・友人宅へ避難、4～5日親子4人で友人宅を転々とした ・徳地に実家があるので、避難所には行かなかった ・友人宅に避難 		

平成 21 年 7 月中国・九州北部豪雨災害における佐波川流域の調査（聞き取り）概要（7）

時系列（公的避難）

時刻	勝坂地区	下右田地区・A	下右田地区・B	田ノ口地区	和田裕地区
～ AM 6:00					
～ AM 8:00	・近所の人と土嚢を積んでいる時、「土石流が来る」と言っている人がいたので、流されないよう山側の影に隠れた		・濁流になっていて出られないので、消防の方に頼んで外から夫に呼びかけてもらった。返事があるので所在確認は出来、夕方小康状態になって、孫が避難させた		
～ AM 10:00	・家族が入院中で独居老人だったので、消防員の方が来てくれて、右田公民館へ避難した		・警察官の誘導でおじいさんもおんぶして、かなり下のおおきな道路沿いの竹藪辺りまで、家族6人が逃げた	・道路も土砂や水で通れない状態、背負ってもらい、近所の方に手を引かれて避難場所へ、着のまま何も持ち出すことが出来なかった	
～ AM 12:00	・高齢のばあさんがいるので、消防員におんぶしてもらって右田公民館に避難した	・右田中学校へ避難		・消防署の人と一緒に老人宅等を回って助け出した、公民館へ避難した人は30数人位、家から持ち寄り炊き出しをし、おにぎりなどを作った	・自治会長のクレーンが来て、橋にかかった流木を除けていたので手伝った
PM ～	・ヘリコプターで救助された人は佐波中グランドに降りて、佐波高へ避難された人もいた	・ひ孫2人、自分は消防の人におんぶされて、助け出された	・避難するように迎えが来たので避難した。佐波中 右田中へ	・動きが取れないでいると、近所の人がレスキューに知らせさせて下さり、ボートで15:00頃救出される	
	・ヘリコプターで救助され、佐波公民館へ避難された	・佐波小学校に避難したが、小学校は避難場所になってないので休憩後右田中学校へ移動	・お嫁さんのスニーカーを履いて家を出る時だけおんぶしてもらった。消防署の方と下の広い道まで歩いて逃げた	・避難の催促を受け、外に出ると恐まで水がきいていた。犬を助けて下さいと頼み、消防署の方、田ノ口の役員の方に助けてもらい、公民館へ避難した	
	・消防署の方に手をひいてもらって4家族一緒に右田公民館に避難した	・消防員に避難を促されて右田小へ近所の方も一緒に行ったが、そこは危険だからと市役所の車が迎えに来てくれて右田中へ行った		・消防の人が独居老人や体の不自由な人をタンカで救出していた。また、会館へ来ていないお年寄りの確認し救出に当たっていた	
21日以降	・日中は帰宅して土砂撤去、夕方には公民館へ避難	・22～23日 右田中へ避難	・24日の明け方市から迎えがあり、5人で佐波中体育館へ避難した	・お年寄りが着のみのままなので近所の人が家の衣類を持って来て、着替えさせていた	・右田中学校避難所は遠いので行かなかつた
	・3日目に市の方がマイクロバスに乗せて地元を回ってくれた	・22～25日まで右田中へ避難、26日家に戻ったが、避難勧告が出て右田中へ	・昼間は右田中の避難所から自宅へ通う	・田ノ口の公民館も3日目には危険と判断され、24日から右田中へ移動となった	
		・主人は、21日は家で寝たが、市役所の人で避難しなさいと言われるので、次の日右田中へ避難	・昼間は右田中の避難所から自宅へ通う	・右田中学校の体育館の避難所に、途中から量が用意されて、寝易くなった	
			・25日迄 右田中学校避難所に居た		

平成 21 年 7 月中国・九州北部豪雨災害における佐波川流域の調査（聞き取り）概要（8）

時系列（公的避難）

時刻	奈美地区A	奈美地区B	松ヶ谷地区	真尾地区	公共施設
～ AM 6:00					
～ AM 8:00					・公民館に出ずっぱり
～ AM10:00		・犬のイサとパンツを持って、公民館へ長靴を履いて歩いて避難			
～ AM12:00					
PM ~	・小野小学校へ避難	・歩いて小野小へ行った ・消防団から避難する様に言われて、歩いて奈美の公民館へ行った。 ・ロープを伝って山越えをして、小野小学校へ避難（犬も連れて） ・夜は、奈美公会堂へ避難（10～15人位）	・山が崩壊したので避難するように言われたが、子が小さいのでヘリコプターを要請し、子供と年寄りが運ばれた ・山越えをして小野公民館へ行くも、避難できる状況では無いので、奈美公会堂へ移動	2:00 小学校へ市役所から1名来られるがすぐ帰られる。 3:00 小学校へ避難者が次々来られる 3:30 小学校へ市役所からようやく2名来られる。避難所が開設される（正式に）	
21日以降	・22日は避難強制が出たので、小学校へ（中は家に帰る）	・25～29日は小野小へ避難 ・一週間は小野小学校で避難生活 ・一部年寄りは公会堂へ残った ・主人は2日目から日中は片付けをし、夕方小野小へ行ってシャワーを借わせてもらい、お弁当をもらって、夜は家に居た ・母親だけ小野小へ避難 ・小野小学校へ避難し、昼間は家に帰り作業	・24日に避難勧告が出たので、小野小学校へ避難 ・26日～9月頃迄西の浦県営住宅で生活	・公民館も8月末まで休業していた ・24日頃から真尾の公会堂へ市の職員2名が配置され、情報や物資を分散される様になった	

平成 21 年 7 月中国・九州北部豪雨災害における佐波川流域の調査（聞き取り）概要（9）

災害復旧

時刻	勝坂地区	下右田地区・A	下右田地区・B	田ノ口地区	和田峪地区
復旧活動	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂は家の者で除けた ・防府水道局が臨時給水栓を設置してくれた ・ボランティアの方が土砂等の取り除きを暑い中よくしてくさる 	<ul style="list-style-type: none"> ・孫夫婦の仕事の関係、娘婿の仕事の関係の人達が泥の処理をやって下さった ・重機が入って水路、生活排水路などの土砂撤去してもらえた ・業者に頼んで土砂撤去 ・盆前位まで片付けた ・避難所から日中戻って土砂除去 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分達（親戚の人の手助け）で、土砂や流木のゴミを道路に出した ・親戚や団体のボランティアがたくさん入ってきて、土砂のかき出しや駄目になった家財の搬出などをしてくれた ・盆前の土曜日にボランティアの方が入らなくて、粗方片付いた ・8月末頃市の男性2人が「どんな状態ですか？」と一軒ずつ訪ねていた ・生活安全課が水質検査をされた 	<ul style="list-style-type: none"> ・会社、団体、個人等のボランティアによる土砂撤去、床下のヘド口除去、家財の撤去がおこなわれた ・業者の土砂搬送、ガレキの廃棄 ・避難所に弁当、飲み水、仮設トイレ、風呂の手配、毛布、シャワー、下着類の用意をしてもらえた。 ・医療班の巡回、警察巡回があった ・自警団を作り、2~3人で夜回りをした。（留守中の盗難防止） ・毎日弁当の支給があった 	<ul style="list-style-type: none"> ・土嚢を積んで水や土砂の流入に備えた ・溝を掘り返して、水の通り道を元に戻してほしいと市へ要望、業者さんの談得もあり、即実施してもらった ・災害ボランティアの派遣により、土砂撤去をした ・西の森が無くなった。（落石、流木により消滅） ・災害後自治会長さんが何度も足を運んでくださった
良好な点	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所ではLPガス協会が2・3日後にシャワーを設置してくれて利用出来た ・他の風呂へも送迎してもらえた ・散髪してもらえた ・食事も弁当だけでなく色々あった ・下着類の用意もあり困らなかつた 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所でのマスコミ取材に対して市の受付の方が、コントロールしてくれたので良かった ・市の燃えるゴミの収集が普通通りであり、道路に出せば処理してくれたので、助かった ・土砂も道路に出せば市が持って行ってくれるので、助かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・剣川を行政が早く対応して、橋に引掛かった木や石をのけてくれたので、良かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の方が1ヶ月弁当生活で、近所の復旧作業を手伝わされた ・避難所では、良く世話をしてくれた ・市の対応は初め悪かった。だんだん要請に応じてもらえるようになった ・今も(8/9)弁当を頂いている ・自治会の役員の方が本当によくやってくさった ・看護学校の人が時々来ていた ・下着も無い為、姉に買ってもらい、洋服は貰ったりして着ている 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会長の対応がよかった

課題・問題点

<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ等で色々言われるようになって、23日に広報車が来始めた ・避難所は市の人が常時2人対応されたが、本部との相談でされるので対応が遅れた ・畳の部屋が1つあったのだが、高齢者でいっぱいになり窮屈そうだった ・ガレキの回収が遅く、1ヶ月近く放置、苦情の電話を入れる ・ガレキの撤去でたらい回しにされた、日頃から緊急時の対応を勉強して欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・水路の土砂もまだ途中までしか撤去できない。川と畑の間が決り取られて、石垣が川に流されて、手付かず ・個人毛の土砂処理で市やクリーンセンターと業者間がスムーズでなかった ・市の対応初めは悪かったが、苦情を言ったら後は良くなってもらった 	<ul style="list-style-type: none"> ・重機やトラックが毎日自分の家の入口を使うので、自分の家の土砂撤去や出入りがままならなかった ・業者にコンボを頼んで来てもらったが、裏が入れないので、隣の家の塀を壊して入れた ・26日頃市の人が2~3人通っただけ ・消毒がなかなかやってもらえなかった。すぐにやってみて欲しかった ・系のボランティアがあるかどうか？と知らせが入ってきていていやな気分になった ・個人でボランティアをする場合、本部を通すと認可が下りるのに時間が掛かり過ぎる 	<ul style="list-style-type: none"> ・市のゴミ処理等の対応が人毎に対応が違う為困った ・近所の人は、声掛けをしてくれるが、手を貸してくれなかった ・ホテルに4日間いたので、自治会との連絡が取れず、ボランティアが入る事もしづらく知らなかった ・市から市営アパートの空きの連絡があったが、年寄りがいるので市民間のアパートを借りていた ・放送局が取材に来たが、真実を放送しなくて欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・排出土砂のことで、後日市役所に電話したが、対応されず、県議に電話したところ早急に対応していただけた ・田に土が入っているので、その土をどう排除するか頭が痛い ・高齢の方がボランティアに参加されていたが、へとへとになっていた ・空き地に流出土砂を積んでいたが、雨による二次災害が怖いと思った ・土砂や流木の処理が個人では出来ないので、なんとかして欲しい
--	---	---	---	--

災害復旧

時刻	奈美地区 A	奈美地区 B	松ヶ谷地区	真尾地区	公共施設
復旧活動	<ul style="list-style-type: none"> ・親元の泥出しは、自費で業者に頼んだ ・家族、親戚、友人、ボランティアの助けで、土砂を運び出した ・県が市が分らないが、道路と溝の土砂を機械で除去 ・小学校のプールからポンプで水を引き土砂を流す。その後、改めて溝の掃除を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・一週間位して、主人の仕事関係、子供の関係で自衛隊の人が、土砂を出して下さった ・知人、ボランティアの人達に助けてもらった 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの助けがとて有難かった ・弁当や飲み物を運んでくれた 	<ul style="list-style-type: none"> ・10日位たって、知人やボランティアにより土砂撤去作業などが出来始めた ・ボランティアさんに土砂撤去をしてもらった 	<ul style="list-style-type: none"> 21 日 午後児童の安否確認 避難所開設 22 日 午前再度児童の安否確認。その後西の住宅の土砂及び家屋の整備をする。(教職員) 学校周辺の整備。管理人さん宅整備応援 23 日 ボランティア受付の手伝いなど応援。気になる児童への電話連絡。午後：教職員土砂のかき出し等(中山と真尾) 24 日 当番制でボランティア受付など応援。以後随時
良好な点	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所は良くして頂いた ・救援物資はちゃんと貰えるので、本当に助かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンターの対応で、復旧に向けて動いてもらったのが、非常に有難かった ・避難所でのお弁当は助かった ・行政サービスも受けにくい、やはり近所の方々の助けが一番有難く役立った 	<ul style="list-style-type: none"> ・市が颯いてくれ、対応してくれた 	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な人に片づけ、食品の差し入れをいただいた 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のいさかいが外からの風が入る事によって、回復する事もある ・この度のボランティアが入ったお陰でやる気が出た ・作業するということより、人との結びつきが災害を復旧してくれた
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・マスコミの取材は神経を逆なでする様な言動があり、腫立たしかった ・自治会から親元の家が半壊状態にも関わらず、ボランティアに出る様に言われた ・3 日間で土砂を道路に出すように言われたが、それは無理 ・機械を有効に使えなかった事は残念 ・市、行政の対応の遅さは否めない ・避難場所の確保(寝たきりの方、持病のある方、妊婦の方)に対応できる状態ではなかった。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・橋の所に掛かった木が、なかなか取ってもらえなかった ・流木を早く除けて欲しかった ・なかなか土砂を取って貰えないので、下水用の側溝は近所の人連で土を掘り上げた ・ボランティアを要請すると店は出来ないと言われた(後で来てくれた) ・市役所等へ問い合わせたが、土砂の撤去等具体的な指示があったのは 23 日午前であった 	<ul style="list-style-type: none"> ・砂防ダムが 4 基あるが、機能していないかった ・7~8 軒分の土砂を空き地に置いていて返すと、市は私有地だから運び出せないと言った(後に市が撤去) ・敷地内の土砂やガレキの処理で市とトラブったが、結局は市が運び出した ・前の道路が土で埋まっていて車が入れず、市に何度も電話して、ようやく 8 月末位に応急処置をしてくれた ・管轄が違ふと言って話が進まない、市の対応が遅い ・土砂を取り除くのに、市へ電話しても業者が来てくれるが、少しのぞくだけ。その繰り返し 	<ul style="list-style-type: none"> ・高砂の救助活動等で車や重機が道路を通る事が出来なかったもので、1 週間程度家を片づけられなかった ・道路が狭い為マスコミ等の車両が道を塞いで、復旧の為の車や重機が通行するのに時間がかり、地元に住む人の車も通るのに大変だった ・管理区間があり勝手に出来ない為、作業が捗らないもどかさがあった ・立场上復旧活動の頂点に成らざるを得なかったが、組織としての取り決めも無く、権限も与えられていない中、指示も出せない、行動も出来ない ・交通網の整備の急務、小野は孤立化する可能性あり ・避難確認の地名は伝えられるが、特定出来ない 	

今後の流域防災へ向け

時刻	勝坂地区	下右田地区-A	下右田地区-B	田ノ口地区	和田裕地区
防災啓発、訓練の影響、効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何も無い時から、ボランティアの登録（一般も）はしておいた方が良い ・ 緊急時の連絡網の確立 一家に一個の携帯電話の確保（自治会まとめ役だけでも連絡し合えるようにしたい） ・ 職員（行政） 地元ボランティア（民間）との「協働」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 剣川の橋が流されて向い側の家にも知らせたいが、連絡出来ず ・ 自治会長に、何かあれば会館の鍵を開けておいて欲しいと要望 ・ 連絡等で自治会長さんが動けないのならば、市が広報車などで知らせ欲しい ・ 訓練、心構え、対策方法など基本方針を出して、連携をしっかりと確立して欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 砂防ダムの復旧を来年の梅雨時期までには直して欲しい ・ 剣川を早く直して欲しい ・ 水路の幅が狭い、水路の中に電柱が入っている、水路の幅が取れないようなら、深さをつけまた勾配をつけ水の流れが良くなるようにして欲しい ・ 川はコンクリートで工事されているが、橋にガレキが引っ掛かり、土砂がたまり、川の用をなしていない ・ 消毒を頼んだ家だけやって、電話で頼まない、市からは来てもらえなかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管理が違つたと拒否され、受け入れられない事はばかりで弱つた（行政の縦割りの説明に疲れた） ・ 河川港湾、道路課など水路、農道の管理部署が違つたらしいが、緊急時には対応をスム・ズに連絡して欲しい ・ 行政へは何をお願いしたら良いかわからない ・ 水路を改修して欲しい。現在も土砂が詰まっており、生活排水が流れない為、匂いがこっている ・ その専門の方が見に来て欲しい。（偉い人が来て駄目） ・ 阿部谷川砂防ダムは、3年前に砂を取ったので、この位の被害で済んだ ・ 砂防ダムがひび割れているので、何とかして欲しい ・ 小さな子供がいるので、お風呂を早く準備して欲しい ・ 被災した人間の気持ちになって対応して欲しい。気持ちにずれがある事があった 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民の知識のなさにも困つた（2次災害のことをいって欲しい） ・ 災害の防ぎ方を皆の意見を聞き、良い方法にして欲しい
行政等への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・ とにかく情報をくれるようにして欲しい ・ 小さい子供がいて子供を見ながら家の片づけをするのは本当に大変なので、被災した人の子供を見てくれる託児所を設置して欲しい ・ 河川改修、砂防ダムの改修をお願いしたい ・ 避難所滞在時の防犯上いい方法がないだろう ・ 災害の復旧作業に県だ、市だ等の区別はいらぬと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難するように言われても、道が川のようになっているのは避難の方法なし ・ 高齢なので自分で復旧作業は難しい（市に罹災届けを出したので、出来る範囲で復旧作業をして欲しい） ・ 川と砂防ダムの早期復旧 ・ 土砂は取って欲しい。道路の所に置かないと持って行かないと言われ、少数敷地内にある土砂は駄目だと言われた。大変困る ・ 8月に2回位市の人に来てたけれど、片づけても一段落した頃来て、被災した方がらすると何の意味もない ・ 個人が作った橋の廃材が詰まってしまいい、被害が大きくなった。橋を個人で作って欲しい ・ 実際に避難しようにも足で歩いて中学校まで避難は大変 ・ 土砂、ガレキが残っている。引き取りの期限延長出来るものかどうか ・ 土砂が入ったままで、撤去もままならない高齢者も居られるから何とかしてあげて欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 砂防ダムの復旧を来年の梅雨時期までには直して欲しい ・ 剣川を早く直して欲しい ・ 水路の幅が狭い、水路の中に電柱が入っている、水路の幅が取れないようなら、深さをつけまた勾配をつけ水の流れが良くなるようにして欲しい ・ 川はコンクリートで工事されているが、橋にガレキが引っ掛かり、土砂がたまり、川の用をなしていない ・ 消毒を頼んだ家だけやって、電話で頼まない、市からは来てもらえなかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管理が違つたと拒否され、受け入れられない事はばかりで弱つた（行政の縦割りの説明に疲れた） ・ 河川港湾、道路課など水路、農道の管理部署が違つたらしいが、緊急時には対応をスム・ズに連絡して欲しい ・ 行政へは何をお願いしたら良いかわからない ・ 水路を改修して欲しい。現在も土砂が詰まっており、生活排水が流れない為、匂いがこっている ・ その専門の方が見に来て欲しい。（偉い人が来て駄目） ・ 阿部谷川砂防ダムは、3年前に砂を取ったので、この位の被害で済んだ ・ 砂防ダムがひび割れているので、何とかして欲しい ・ 小さな子供がいるので、お風呂を早く準備して欲しい ・ 被災した人間の気持ちになって対応して欲しい。気持ちにずれがある事があった 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農道を市道にして欲しい（市道並の交通量なのに災害対応しない） ・ 土砂や流木の処理が個人では出来ないで、なんとかして欲しい ・ 谷川の改修工事については、陳情書も持っていないが、対応してもらえない ・ すぐに動いてくださる方にすがりたいと思つた

今後の流域防災へ向け

時刻	奈美地区A	奈美地区B	松ヶ谷地区	真尾地区	公共施設
防災啓発、訓練の影響、効果	<ul style="list-style-type: none"> ・防災に関して安易に考えていた。何かあったら避難すればいいという考えは、随分浅はかだと感じた ・今回のような水害は、短時間で水位が上昇し、車での移動は不可能であった ・災害時は、独居老人など、一人暮らしの人のケアが大事と思われず。それは常日頃から地域での付き合いの横の繋がりが大切だと思われず ・人間としての情け&温かさが欲しいという事を痛感しました 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に限らず普段からの近所の繋がりが大事だと痛感した ・非常時には行政からの連絡、指示が伝わりにくく、このような大きな災害が発生すると、行政サービスも受けにくい、やはり近所の方々の助けが一番難しく役立つと思う ・被災した者は行政がすべて何とかしてくれると思いがちで、行政の範囲外のことまで求め、できない事が解ると不信感を抱くので、ある程度の知識は必要であると同時に早期に解りやすい広報が必要だと思った ・今後はこの経験を基に豪雨による土砂災害も想定した訓練、準備が必要である 	<ul style="list-style-type: none"> ・砂防ダムが4基あるが、定期的に浸漑を必要があるので、ここにも来てくれないか ・道が決すぎる。工事車両が入らない。早く整備して欲しい ・もっと柔軟な対応をして欲しい。 ・川の整備を早くして欲しい。 ・浄化槽の補助を要望 ・管轄が違つて話が進まない、市の対応が遅い ・砂防ダムが完成する迄、ダンプや重機が出入りするので、舗装でもして欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに、ここまで大規模な災害がなかった事もあり、効果についてはよく解らない 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の防災訓練が学校は生かされたが、他はどうであったろうか。 ・自主防災組織の連絡網、組織の強化をより明確に強く押し出したい。 ・携帯メールでも発信し、受信できるような地域の連絡網があるとうい
行政等への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・積み出しの場所は個人、公関係なく空いている所を活用して欲しかった ・自衛隊ももっと活動させても良かったのでは ・県外からでも機械を持ち込んで、早急に道路を確保しなければ作業は捗らないし、生活もままならない ・国も県も市も自分の事として、考えてくれないと思う（流木も石もそのままの状態、次に大雨が降ったら、必ず二次災害が起きる） ・以前大雨が降ると県道から水が入るので対応をお願いしたら、県の人が、「家が流れたら考える」と言われたもつと、そこに住んでいる人の立場に立った活動をして欲しい ・水路がちいさいので、吸収出来るような水路を確保していただきたい ・行政には、災害時の早急な対応を求めます 	<ul style="list-style-type: none"> ・府府には自衛隊があるのだから、高砂や262号だけでなく、ここにも来てくれないか ・お互いが音響でないことを言うては、結局全部をちゃんどやってくれない。横の繋がりが余りにも無過ぎる ・復旧に関するいろいろなる事が、全て国、県、市でバラバラ我が身になった時、同じ様な対応をされても、仕方無いと思えるのだろうか ・市の人も見に来ているかもしれないが、一声掛けていくくらい心遣いがあるてもいいのではないか ・早急に砂防ダムを作ると言つて、何の動きも無い ・川と砂防ダムを早く直して欲しい ・災害の後はゴミが出てくるのはわかっている事なので、捨てる場所を市は急いで決めて欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の身は自分で守る。 ・山、森、川をもっと大切にしたい ・安心して住めるようにしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・意識改革を必要がある。「今までなかったから、災害は大丈夫」「ここはそんな所ではないから大丈夫」「もう、そんなに度々有るわけない」などの災害に対する安易な考えは変化させねばならない ・避難勧告等早め早めの指示と各所への情報提供の整備 ・避難所への情報の提示 ・避難所への市の職員の早めの配置 ・行方不明者がいた場合のすばやい捜索対応（消防署、警察、自衛隊との連携） ・危険箇所の整備 ・避難所の施設の充実（発電機、電話、非常用消耗品を市へ保管する等） ・学校避難所の管理職への適切な指示や伝達（勤務時間等についても） 	

(2) 被災した自治会などでの聞き取り調査

真尾・奥畑自治会(8/5~8/9)

- ・ 住みたいが、将来の見通しがたたない。災害当日は、2階に避難した。
- ・ 砂防ダムの設置予定は、いつ頃か。庭先の土砂が床より高いので、雨が降ると土砂が流れ込むため、ボランティアで溝を掘ってもらいたい。
- ・ 倉庫、納屋が流れた。車2台、軽トラも流れている。
- ・ ダンプが通りアスファルトが痛んでいる。きちんと直してほしい。
- ・ 納屋の裏側が崩れたので、業者がコンクリートで埋めた。
- ・ 消毒は終了したが、水が澄まなければ水質検査ができない。
- ・ 土石流のセンサーが設置されたので良い。広報が聞こえなかった。
- ・ また雨が降ったらどうなるのか。サイレンを設置してほしい。
- ・ 田の中の泥から臭いがする。夏休み明けまでには、通学路の復旧をお願いしたい。
- ・ 日ごろ子供が一人で家にいることが多い、どちらの方面に逃げたら良いか。
- ・ 工事の計画はあるのか。
- ・ 12時50分頃、ゴーとの音を聞いて、外を見ると岩が転がっていた。
- ・ 家の前まで車が入れない。人手が必要。ボランティアが来ないので、親戚等で作業している。井戸水が使えないため、ペットボトルに入った水5ケースを提供。今後も水が必要。(奥畑)
- ・ 建物を修理するか、しないかを定めるため、今後の見通しを示してほしい。また、ポンプの修理代(16万)の援助はあるのか。庭の塀を壊したのは行政だ、川の塀は県土木が壊した。激甚災害の指定はまだか、早く手を打ってほしい。(奥畑)
- ・ 借家を探すか、市住はペットがダメと言われた。「2階から救助された人がいるため、心のケアが必要」と言えば、「子供はすぐ忘れろ」と言われた。
- ・ カウンセラーや心のケアが必要。
- ・ 大金を投入して家の再建は困難、あきらめるしかない。水害に対する保険は高い。方向性が定まらないことに不安で、行動に移せない。地域として砂防ダムを希望。個人的には、あきらめている。説明をしてほしい。
- ・ 個人の持ち物は、行政が何処まで行うのか。ボランティアが重機・トラックを使用し、民地に道を作っている。
- ・ 砂防ダムは作るが、ここには住めない。力添えがほしい。
- ・ 目撃者の状況をまとめてほしい。防災に対する知識がないので、行政はシミュレーション等を実施してはどうか。川の土砂を撤去する際、橋も取り除いた。橋を早く元に戻してもらいたい。レンタカーを借りるための補助金を出してほしい。危険度等の調査が進んでいるのか、情報が伝わってこない。地域の意見を直接行政に伝える場がほしい。
- ・ 先のことを考えると、夜も寝られない。ブロック塀を撤去してほしい。
- ・ 山の崩れた状景が目につくため、撤去してもらいたい。
- ・ 安全・安心が一番。資金がない。3万円では何もできない。安全宣言がない。避難勧告が遅かった。二重生活は苦しい。橋が細いので、どうかしてほしい。

- ・ 私道を被災したが、行政からの支援がない。
- ・ 避難勧告がいつ出たのか分からない。地鳴りがした。早く復興してほしい。
- ・ 台風シーズンまでに、何とかしてほしい。大きな石の位置がずれている。
- ・ 土嚢がほしい。朝8時頃は水が一杯で、消防に電話したら「親戚の家に避難するように」と言われた。40年住んだ家がなくなったのは、淋しい。
- ・ 始めは椅子で寝ていたが、折りたたみベッドで寝ている。道路が舗装で高くなっている。消毒ができたので、畳が干せた。
- ・ 谷川が玄関に向かって流れている。流れを止めてほしい。
- ・ 倉庫に流入した土砂と、用水路の土砂を撤去してほしい。
- ・ 車がないので、買い物が大変。水質検査を希望。地下の冷蔵庫を出してほしい。避難場所の再検討。(小野小学校が遠い)
- ・ 夜間の盗難対策、自警団の見回り、警察の見回り。
- ・ 民地の土砂は、自分たちで撤去することは、おかしくないか。
- ・ ボランティアが土砂を撤去した。農機具等の回収は市で行うのか。
- ・ 地鳴りがした。

奈美自治会(8/5.6.7)

- ・ 避難勧告を早く出してほしい。(障害者がいるので、機器を持っていく必要がある。
- ・ 市からのメールを早く出してほしい。
- ・ 広報車のスピードが速いため、内容が聞き取れない。
- ・ 消毒、水質検査を希望する。土嚢の処理をお願いする。
- ・ 床下の土砂を取り除いている。残っている土砂を撤去してほしい。
- ・ お店がないので、食料の買出しが不自由。
- ・ ゴミの搬出(期限を延長してもらいたい)
- ・ 排水が詰まっている。何処に流れているかは不明。
- ・ 奈美川の土砂が溜まっている。ボランティアの配置が悪い。
- ・ 小野中の上側に土砂が溜まっている。早く復旧してもらいたい。
- ・ 小野小の排水をどうかしてほしい。
- ・ 用水路の水が吐けないため、オーバーフローする。
- ・ 寺の西側が崩れている。今後どうなるのか。
- ・ り災証明はすぐもらえるのか。
- ・ ボランティアにより、宅地の土砂を撤去してもらった。
- ・ 災害時の住民のマニュアルを作成してほしい。
- ・ 今後の対応を早くお願いしたい。

大道地区他自治会（8/14）

- ・ホテルで暮らしている。消毒済。
- ・井戸が潰れ、飲料水に困っている。（中浦）

中山自治会（8/6）

- ・家の裏側の水路が埋まり、オーバーフローした水が長屋に流入した。
- ・用水路の土砂をボランティアで除去した。
- ・消毒を希望する。
- ・避難勧告等の非常時の体制をしっかり作ってほしい。
- ・生活道路の仮補修はやっていただいたが、本工事にはどれくらいのお金がいるのか。
- ・谷、畑、小屋は同じ場所にあるが、それぞれ課が違う。
- ・山の崩壊箇所等を整備してほしい。
- ・大雨時に木が割れる大きな音が聞こえた。治山事業対策をお願いしたい。
- ・小野小避難時には、よくしてもらった。

松ヶ谷地区（8/7）

- ・水質検査、消毒をお願いしたい。家財及び敷地内の土砂を撤去してもらいたい。
- ・松ヶ谷川の護岸工事を早急をお願いしたい。
- ・水路から上げた土砂の撤去をお願いしたい。
- ・家の背後に引かかる流木の撤去をお願いしたい。
- ・私道に置かれていた土砂を撤去するために、道路が陥没した。整備をお願いしたい。
- ・家に入る道が洗われている。（ボランティアで整備する。）
- ・河川の土砂が1/3撤去されていないので、不安である。
- ・河川護岸の崩壊箇所の復旧については、行政をお願いしたい。
- ・コンクリート柵に、大木がある。県の災害復旧時に撤去をお願いしたい。
- ・松ヶ谷川に隣接する宅地の基礎が浮いてクラックが入っている。応急処置が必要である。
- ・堤からの水が合流し、大雨の時、屋敷まで水が入る。
- ・残土が臭いので処分をお願いしたい。
- ・宅内の土砂の搬出をお願いしたい。

鈴屋自治会（8/6.7）

- ・ ボランティアの派遣を希望。消毒を希望。
- ・ 川の土砂を撤去してもらいたい。

石原団地（8/7）

- ・ 消毒・水質検査をお願いしたい。
- ・ 小野小が新築されたことにより、水路に水の流れが集中するように思える。水路の拡幅をお願いしたい。

和田峪地区自治会（8/5.6）

- ・ 和田谷川の本格復旧をお願いしたい。田の土砂の搬入先を決めてもらいたい。
- ・ 青線に詰った土砂を自分で業者に依頼し撤去した。
- ・ 休耕田の土砂を撤去してほしい。
- ・ 自宅裏の土砂対応について、行政が行うのか。
- ・ 土砂の搬入場所を明確にしてほしい。
- ・ 自宅に流入した土砂が半端でないため、特例として行政で対応できないか。
- ・ 消毒希望。水質検査を希望。

右田片山の二自治会（8/7）

- ・ 粉塵が舞うので散水してほしい。
- ・ 床下の泥は自分では出せない。ボランティアか業者への依頼を検討中。
- ・ 健康に不安。ボランティアの巡回を希望。

田ノ口自治会（8/5.6）

- ・ 三谷川の川底に堆積した土砂を年に1回は、取り除いた方が良い
- ・ 三谷川が改修されて50年経過しているため、全面改修の時期ではないか。
- ・ 三谷川沿いの官地上に置かれた土砂の対応について、県、市に確認しても答えがない。
- ・ 三谷川の護岸の高さを上げてほしい。土砂置き場を用意するのが遅い。
- ・ 井戸水の水質検査を依頼中。家に住める状況なのか分からない。
- ・ 消毒を早く実施してほしい。
- ・ 農業用水の側溝の整備をお願いしたい。（水路を広く）
- ・ 国・県・市からの災害補助金を出して欲しい。本部長に合って直接話したい。
- ・ 今後の災害に対しての参考にしてほしい。
- ・ 情報が地元が届かない。市の対応を早くしてほしい。（り災証明等）
- ・ 親戚に頼んで重機を入れた。何日か浸水していたため、臭いがする。
- ・ 農道の土砂の撤去は、どうなるのか。砂防堰の修理はあるのか。
- ・ 住める家にして欲しい。散水車を希望。ゴミの捨て場が遠い。
- ・ 個人の進入路が陥没している。濁流の音がよく聞こえる。
- ・ ボランティア作業で土砂を撤去し、排水できるようになった。
- ・ 何をどうしたらよいか、アドバイスがほしい。
- ・ 「個人の家は個人でやってくれ」と、言われたが、個人で復旧するレベルではない。
- ・ 重機で家の周囲の土砂を撤去したが、経費は国・県・市のいずれの機関で、全額または、一定割合負担してもらえるのか。
- ・ 困っているのは、トイレ・水・電気の復旧。
- ・ 家の側に簡単な水路を作ったが、汚水処理ができないため、排水ができない。
- ・ 昼食の支給はあるが、朝・夜食の支給なし。
- ・ 個人で搬入できないので、業者に依頼したが、クリーンセンターに搬入できなかった。柔軟な対応してほしい。

右田新町・塚原・上河原自治会（8/5.6.7）

- ・ 阿部谷川の拡幅をお願いする。山が松くい虫などで荒れているので、砂防堰堤が必要。
- ・ 水路の土砂を自分の田んぼに上げた、市の方でどうにかしてほしい。
- ・ 水路の上流に、土砂や流木があるため、二次災害が心配される。対応を要望する。
- ・ 自分のユンボで、土砂を撤去した。その土砂の撤去について市に断られた。
- ・ 土砂の撤去費用を要望。水質検査をお願いしたい。
- ・ 浄化槽のポンプの取替え、補助は出るのか。

- ・ 川が浅くなったので、土砂を取り除いてほしい。
- ・ 広報車の音が聞き取れなかった。避難するのに、どこが通行止めか分からなかった。(近くの道が渋滞して、全体の動きが知りたい。)
- ・ ホームページに、航空写真が載っていると良い。
- ・ 登山道に水路を作ってもらいたい。(住宅に水が入り込む)
- ・ 自分の地域が危険区域に指定されているか知りたい。
- ・ 阿部谷川が土砂で堆積しているため、氾濫しやすくなっている。何とかしてほしい。
- ・ 土砂の集積場所が一杯、個別に回収してもらえるか。

右田市上自治会 (8/6)

- ・ 道路上のゴミや土砂を早めに撤去してもらいたい。
- ・ 消毒依頼。壁が崩れ生活排水が流れず、畑に流入している。
- ・ 土砂はボランティアで取り除いてもらった。消毒を希望。消毒が不十分。
- ・ 溝の蓋が割れている。土砂を業者に依頼し撤去。
- ・ 自宅裏の水路が埋まっており、トイレも使用できない。
- ・ 眠れない状態。消防の人が来てくれて助かった。
- ・ 早めの情報提供をお願いしたい。地区のつながり、こんなはずではなかった。
- ・ 応急修理の助成について詳しく説明してもらいたい。(手続き方法)
- ・ ストレスで、血圧が上昇。ストレスで、寝むれない。
- ・ 「土砂の撤去は市が行わない」と言ったため、実費で撤去する。その後、「市で撤去する」と言い出した。どうなっているのか。
- ・ 土砂を集積するステーションが一杯。家の前に置いている。
- ・ 市広報が遅い、自治会長宅で止まっていた。業者に浄化槽の汲み取りを依頼したが、土砂が混じっているため、断られた。
- ・ 住宅の相談に行ったところ、たらい回しにされたので、民間に申し込んだ。6ヶ月は補助が出るが、その後の生活について市住の申し込み等を市で方針を示し、説明してほしい。
- ・ 剣川の橋が流されたので復旧してほしい。費用の負担をしても仕方がない。
- ・ 用水路が完全に埋まっている。生活排水が流れているので臭い。
- ・ 家の周辺の土砂を個人とボランティアで除去した。
- ・ 床下浸水と言うことで、減免が受けられなかったため、受けられるようにしてほしい。
- ・ 砂防工事を速やかをお願いしたい。石組が壊れているので、雨が降ると怖い。
- ・ 水質検査の予約が取れない。
- ・ 住み替えを考えている。地域が調整区域なので、家を新築するにしても、制限があって困る。

- ・ 畑に土砂、流木を積み上げている。土砂を片付けてもらえれば、土地の復旧は早い。
- ・ 水路が細すぎるので、大雨には対応できない。土嚢を積み応急修理。
- ・ 消毒を希望。車が流された。
- ・ 浄化槽に土砂。ブロック塀、石垣が倒壊し自分で撤去した。補助金及び義援金の配分をお願いしたい。

神里自治会（8/5）

- ・ 道路の粉塵が大量に発生しているので、その対応をお願いしたい。
- ・ なぜ、細い用水路を作ったのか。消毒をお願いしたい。
- ・ 自分の所さえ良かったらと、みんな思っている。
- ・ 大雨が気になる、早く用水路の修理をお願いしたい。
- ・ 流木や土砂は、親戚の者に除去してもらった。
- ・ ピンチはチャンスなので、頑張ってもらいたい。
- ・ 水道料、固定資産税、所得税等の減免について、お願いしたい。
- ・ 家屋調査の結果を教えてほしい。
- ・ 電話して5分待たされ、別の場所に回され更に、5分待たされた。（携帯から電話した。）
- ・ 消毒を早急に。
- ・ 目が不自由なので、親戚や隣の部落の人がやってくれた。
- ・ 道路に土砂等を出すのに、もう少し余裕がほしい。
- ・ 広報車の音が聞こえない。
- ・ 石灰を自分で購入し、撒いた。

勝坂自治会（8/5.6）

- ・ 家に入る進入路が土砂で埋もれている。
- ・ 排水溝が詰っている。消毒をお願いしたい。
- ・ 壊れたブロック塀は個人では処理できない、誰が行うのか。
- ・ 畑の中に大きな石がある。除去してほしい。
- ・ 電柱等が倒れているため、ケーブル TV の補助及び助成はないのか。し尿の臭い等について。
- ・ 上水道の復旧をお願いしたい。
- ・ 7.21の災害の光景が思い浮かび、家に帰りたくない。
- ・ 井戸水の水質検査をお願いしたい。

- ・ 避難勧告の情報について説明してもらいたい。(解除時期、解除基準等)
- ・ 河川の護岸が壊れている。復旧はいつ頃か。
- ・ ため池の土手にブルーシートがあり、土手の決壊が心配。
- ・ 堰堤に亀裂があり二次災害が心配。
- ・ 自宅が住める状態であるのに、避難所に行くのが大変。
- ・ 剣川の氾濫により、軽トラックが川に落ちかかっている。落ちたトラックはどうすれば良いか。
- ・ 病院に2日に1回通院しているが、病状不明と言われている。
- ・ 家屋の解体手続きはどうすれば良いか。瓦礫、家電ゴミ等の処分を早くお願いしたい。
- ・ 小学生がいるので、校区を変更することなく借家があれば。
- ・ 住宅の応急修理の助成について、詳しく説明を聞きたい。
- ・ 畑の中に剣川の土砂が放置されている。どのような処理を行うのか、今後の対応をお聞きしたい。
- ・ 家の中の土砂を国道(262号)に搬出すれば、いつ頃撤去するのか。
- ・ 早期に人が通れる程度の仮設橋を設置してもらいたい。
- ・ 自宅に入った土砂は、実費で除去しているが、費用の補助はないのか。剣川の流れが変わっている。現状復旧するのか、このままにするのか。
- ・ 大きな堰堤を作り、剣川の川幅を広げてほしい。262号線沿いの川に木が挟まっているので、撤去してほしい。
- ・ 土砂等はボランティアで除去したが、大きな流木等を撤去するには、重機やチェーンソーを使えるボランティアの派遣をお願いしたい。

奈美地区(自治会長) (H22/2/4)

- ・ 平成22年7月21日の午前8時30分から9時頃、奈美の商店に水が入り、道路に水が流れていた。8時30分頃、土のうを積んでしのごうとしたが、誰も予想していない出来事であった。
- ・ 10時過ぎには、十七の谷川が溢れていた。
- ・ 自主防災組織の連絡網があったが、当日は役に立っていない。
- ・ 休日ではなく、若い人が働きに出ているため、帰ろうとしても帰れなかった。人手不足であり、消防団も若い人がいなかった。
- ・ 自主防災組織を設置したばかりで、何をしてもよいか分からなかった。
- ・ 7月22日の昼に役員を集めた。避難勧告が発令されたため、自治員(4人)から、各班長等へ連絡するよう指示した。
- ・ 小野・和字・中山の方は、小学校へ避難した。(避難場所へ行き声かけ等を行った。)
- ・ 避難者宅への盗難が発生したので、夜警等も行った。

鈴屋地区（自治会長）

- ・ 鈴屋地区の避難者は、数人お寺（宗音寺）へ避難したが、大半は避難することなく自宅にいた。
- ・ 高齢者と民生委員が良好な関係であり、避難については上手くいったと思う。（1人住まいの方と、75歳以上の2人住まいの方の所在を把握している）
- ・ 小学校への避難者は、数家族であった。
- ・ 緊急時の連絡網を短くするなどの対策を講じた。

奈美地区（商店）

- ・ 11時30分前後に家に帰った方が良いと、公民館の館長から言われた。
- ・ 昼前に水が来て、その後、土砂が来た。自宅の床下まで水が来た。
- ・ 奈美川の氾濫した水が店の北側から東側へ回り、佐波川へと流れていった。

奈美地区（酒造）

- ・ 9時から9時30分頃、店の前は何もなかった。30分過ぎ頃、水が来た。
- ・ 店の中に水が入り、首まで浸かった。その時、冷凍庫やテレビ、机が浮き上がっており、流木までも店に流れ込んだため、その流木でガラスを割り水を外に出し、難を逃れた。

真尾地区（自治会長）

- ・ 7時頃、堀溝へ様子を見にいった。帰るとき（8時頃）には、水が赤く濁っていた。その後、坂本へ行った。
- ・ 10時前後頃、ライフケア高砂南側の 宅前の真尾川が氾濫状態。小野分団へ出動要請を行う。その後、普明寺川が氾濫した。
- ・ 11時頃、ライフケア高砂の事務所へ行き状況確認を行う。（大丈夫との返答）その後、真尾の 宅へ行き、大歳神社行ったが異常はなかった。
- ・ 12時過ぎていたと思うが、上田南川と真尾川の合流地点で真っ黒な水が出ていた。ライフケア高砂が崩れたと思った。

右田公民館で

- ・ 7月21日の朝6時頃から国道262号は、30cm位の水が流れていた。
- ・ 10時頃には、国道262号の4車線のうち、1車線しか通れなかった。
- ・ 国道262号には、多くの車両が通過していた。

(3) 障害を持つ子供の保護者の皆さんの声

災害時の支援などでた話

体調が悪いときの避難と避難生活

インフルエンザ等うつる病気時の避難と避難生活(マスクもいやがってできない場合もあり)

避難所でうつる病気にかかった場合

てんかん発作がある場合

避難所の建物に、いやがって入ってくれない

食事、偏食、除去食、蕊下形態、チューブその他、一般のお弁当やパンが食べられない場合

お箸が使えない(特別な形状をしたスプーン等必要な場合)

食事が、暖かくないと食べられないというこだわり

食事をこぼすときの対策 断水中など

トイレ、オストメイトの方、車椅子の方、トイレの表示、形、色、窓がある、なしこだわり

手洗い、洗面所での水遊び

避難所 広すぎるのも難しい仕切り等欲しい 広い中走り回る、他の人や、他の人の荷物なども踏んでしまう、こける、走っているときなど他の人にぶつかってしまう(相手側の怪我、本人の怪我)

他人のものと自分のものの区別が出来ない場合、他人の荷物をあけたり、持ってきたりする

どこからどこまでが自分の居場所かがわからない

外へ勝手に出てしまう(はだしなどで飛び出す)

避難所のルールが理解できない

暑さ、寒さ、体温調節ができにくい

声の大きさ、奇声、静かにと言ってもわからないし、静かにする時間、場所もわからない

夜寝る時間帯、何時から何時までは静かに声を出さないと言ってもわからないし、むずかしい

窓やドアがすべてしまっていないといけないこだわりの場合、夏場等避難所でどうすればよいか

避難所で、障害者がパニックのときの泣き叫び、自傷への対応

睡眠時間のずれ、(夜寝ない)睡眠時間が短い

決まった靴や、服しか着られない 災害時洗濯もあまりできないので困る

順番が理解できず、守れない

トイレ失敗時 着替え、洗濯、掃除の問題 シャワーなどもあればよいが・・・

オムツ替え時などプライバシーの場所確保

薬、薬の管理、飲ませ方、水が無いときの水溶性薬などや、ヨーグルトや、ジュースなどに混ぜて飲ませている場合、混ぜるものが手に入らない場合

安否確認、家の固定電話つながらない 携帯の番号が必要

サポートブック最初のページ(重要事項)は統一して、情報が把握できやすいように

どれがサポートブックか一目でわかるよう、表紙等の色、形等

各避難所で情報はどこを見たらわかるか等表示の仕方

家が地震等で倒壊時や、親がけが等で入院のとき、障害児者に親がつけないときの支援

近所の人などから、SOSの発信をどこにするかわからない

民生委員さんも被災されることもあるし、民生委員さんだけでは手が足りない

障害者だけの場合、だれが救うか、避難所まで誘導して下さるか

遠くの病院にかかっている、災害時その病院に行けないときの対応

自衛隊のお風呂 嫌がって入ってくれない場合、男の子で母親が支援しているとき、着替え、体洗い等支援は？

総合支援学校などへの障害児者の避難の受け入れ（トイレ等障害者用のものがある）
避難所で親がずっとみていると、親も倒れてしまう 避難生活支援、短期入所等
決められた避難所にも避難勧告、避難指示が出た場合
新しいところには、なかなか慣れてくれない
避難所に支援に入られるとき、腕章など一目で、障害児者支援員とわかるようなものを身につけて
欲しい
災害時相談を受ける体制 支援の要望が多くパンク状態になる
支援の緊急度把握はどうか
携帯も電池切れで、電話がかかけられない場合のＳＯＳの発信の仕方
車の中に避難している人への情報伝達、みまわり
市役所安心安全情報メールで、障害児者関係の支援の情報をながしてほしい
避難所に貼りだす情報の文書の漢字にふりがなをつけてほしい
貼り出す情報の種類で色分け等工夫して欲しい
障害にあった支援方法を書いたものが欲しい
災害時、障害者が一人きりで家等にいる場合
災害が危険なものというのがわからない
災害で避難する意味がわからない
災害で避難の方法がわからない
誰に、どこに助けを求めればよいかわからない、助けを求めることがわからない、できない
どうなれば災害になるのか程度がわからない、怪我をしても訴えられない
いつ避難するか時期がわからない
障害者意思の伝達がむずかしく、また、指示や言葉がわからないことがある
ぬれるのがいや、雨があたるといたいなどの感覚敏感やこだわりのため避難しづらい
名簿だけでなく、人 - 街 - 事を地図上で時系列で結び付けられる仕組み(マップがないと家の配置、
道順がわからない)
災害タウンウォッチング いろいろな災害を想定して、避難道、避難場所など行って見る
障害者の避難生活を支えるグッズ等の紹介が欲しい
水かさが増えたときの避難、車椅子や装具等での避難がむずかしい
避難場所での中、長期的支援
高齢者・障害者の見守りネットワーク作り
災害時、サポートブックを持ち出せないときでも、障害者一人ひとりの情報がわかるデータ化
音や人の声に敏感なため、たくさんの人がいるところにいるのは難しい
高齢者・障害者医療情報キットの活用（防府市新規事業）
保護者も災害に備えて、障害者の食べられるもの等の備蓄や、障害者が時間をすごせる物の準備が
必要
近所の人にも、日ごろから障害者のことを、話をしたり会わせておいたりする必要がある
自治会にも障害者がいることを、話しておく
災害時、自治会での細かい地区での支援者は、自治会班長ということですが、班長自身ひとり暮ら
しの高齢者で、要支援者であることがある。障害者の支援者を複数人決めておく必要があるのでは
ないか(保護者等がいつも障害者のそばにいるとは限らないので、保護者以外の支援者が必要)
避難所での情報提供は、言葉のみではなく、書いたものも同時に示して欲しい（自閉症は聴覚認知
より、視覚認知のほうが良いため）

(4) 豪雨災害についての要望・意見

豪雨災害についての要望・意見

平成21年8月20日

自治会連合会

7. 21豪雨災害で大きな被害を受けられた自治会にアンケートを実施して、回答のあった項目を要約したものが下記事項です。

1. 市(災害対策本部、災害復興本部)に対する要望事項

- ① 平時から大雨に備えた、中・小河川の管理強化。(剣川、三谷川、甲久保川、阿部谷川)
 - ・ 護岸点検、浚渫、清掃、除草等
- ② 土砂災害の恐れのある危険地域の周知徹底、ハザードマップの発行。
- ③ 防災行政無線について
 - ・ 屋外拡声器は全戸に聞こえる様にすべき(豪雨時、風向きにより全く聴取不可)
 - ・ 自治会長宅に設置の子機も、家にいなければ全く用をなさない
- ④ 復旧情報の早期伝達
 - ・ 道路、土砂流入田畑、生活用排水路の復旧対策並びにその方法
- ⑤ 県の管理する阿部谷川の早急な改修と大型砂防ダムの建設。
- ⑥ 剣神社橋のすぐ上流にある新幹線側道の橋げたを高くしてもらいたい。
 - ・ 右田市萩往還道への土砂流入の元凶と思われる
- ⑦ 農業用水路の土砂撤去は、地区まかせではなく、市が対処していただきたい。
 - ・ 高齢化が進み、地区だけでは対応しきれない
- ⑧ 今後も長い時間をかけて後片付けをする必要があり、多くの土砂やゴミが出るので当分の間、月2～3回の回収を実施してほしい。
- ⑨ 剣川取水口が壊れて、右田市上・右田市下の生活排水路に浄化用の水が流れない。衛生面からも早急な復旧をして戴きたい。

2. 災害発生に対して市に対する意見

- ① 災害対策本部は、早期に現状を確認し、正確な状況把握が必要。
 - ・ ガレキ、土砂、流木等の処理の指示が全く実情にそぐわない
- ② 広範囲な災害発生時には、被災地区専任の指揮・命令・指示を出す体制作りが必要。
 - ・ 指揮官不在と思われる混乱が有り、効率的な復興活動の妨げになった
- ③ 避難場所には、プライバシー保護のためのパーテーションの設置が望ましい。
- ④ 避難場所には、災害非常用専用電話・FAX回線の設置、無料電話の設置がほしい。
- ⑤ 住人の避難場所内には、報道はシャットアウトすべきである。
- ⑥ 朝令暮改的な避難場所は設けるべきではない。
 - ・ 朝は避難場所、夕方は閉鎖(佐波中学校)

(5) 土石流の前兆現象に関する聞き取り

<u>回答のあった質問</u>	<u>回答数</u>
1) 土石流の前兆の『音』について	
土石流が来る前に石や岩がぶつかり合うような音を聞いた。	2
2) 土石流の前兆の『におい』について	
木と木が擦れ合うことで生じる生臭いにおいを感じた。	1
腐った土のようなすっぱい臭いを感じた。	1
3) 土石流の前兆の『水の流れ方』について	
土石流の起こる前から、いつも以上に川の水が濁っていた	3
土石流の起こる前から、流木が多く流れてきた。	1
土石流の起こる前に川の流りが、一時的に少なくなった。	1
いつもとは違う場所から水が流れ出ていた。	1
4) その他	
7月21日の朝からの雨は、いつもよりかなり強く降っていると感じた。	8
土石流については、これまで考えたことが無かった。	2
前兆現象を感じて、何分後に土石流を感じましたか。(約 分後ぐらい)	
	(10分後)

『土石流の前兆現象』について何か感じたことがあれば、記入してください

- ・濁った水が流れ出ていたが、一時的に透明になり、次には土砂がやってきた。
- ・山の上の方から雷のような音が聞こえていた。
- ・土蜂が霧のように舞い上がって、衣服に入ってきた。
- ・川の水がいつもの濁りとは異なり、真っ黒い色だった。

(6) 奈美地区の住民を対象としたアンケート調査資料

1 はじめに

防府市奈美地区では、正午過ぎに松ヶ谷川の上流で表層崩壊が複数発生し土石流となって流下し、多くの建物に浸水や土砂が浸入・堆積し、1人が犠牲となった。小野小学校跡地には多くの流木が流れ込み、住宅や店舗も床上や床下浸水などの被害が発生した。図5.1に7月21日における防府市のアメダス降水と奈美地区での被害発生時刻を示す。大雨洪水警報や土砂災害警戒情報は早朝から発表されていたが、住民の周知度や当日の対応や行動などについて知り、評価する必要があると考える。そこで、本章では豪雨災害時における住民の対応や行動ならびに住民が今回経験した豪雨災害から今後の災害対策を明らかにするために、防府市奈美地区の住民にアンケート調査を行い、奈美地区の状況、災害当日の住民の判断と行動、災害後の行政などの対応評価を調査し、住民が考える今後の災害対策についての課題の検討を行った。

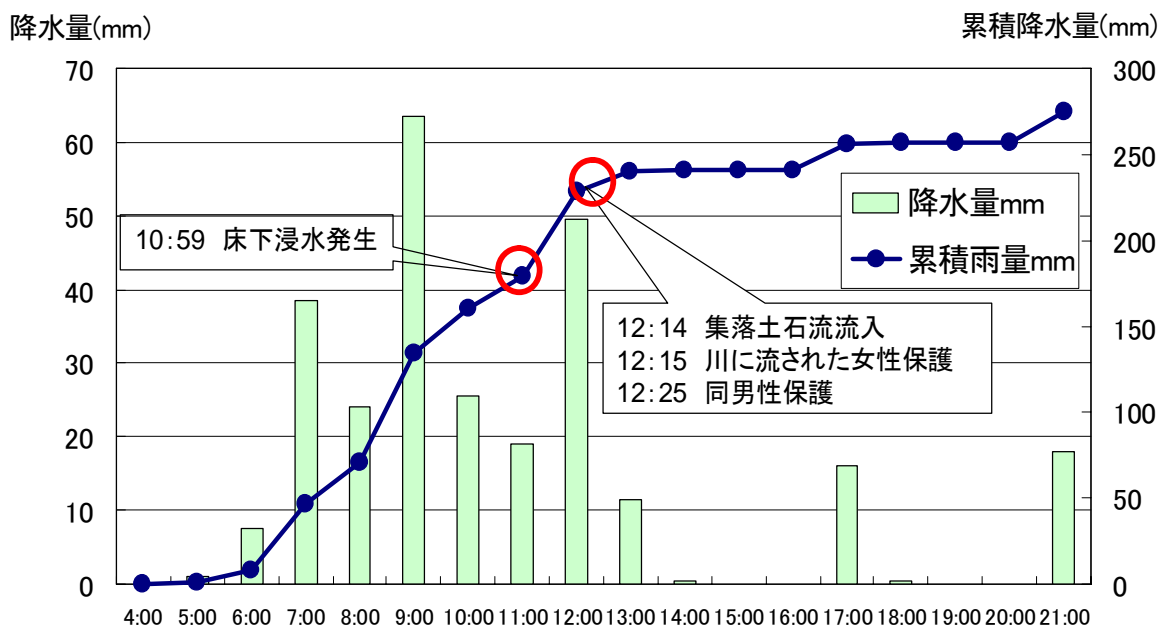


図5.1 防府市の降水状況と奈美地区の被害時刻

2 アンケート調査実施概要

平成21年11月28日(土)、29日(日)にかけて災害時に避難勧告が発令された奈美地区の62世帯にアンケートを依頼し、戸別訪問で原則手渡しにより配布および回収を行い、不在宅については郵送を依頼した。アンケート調査表は59部を配布し51部を回収した(回収率86%)。アンケートの調査項目は回答

者の属性(5問)、防災に対する日頃の備え(2問)、防災知識(8問)、奈美地区の状況(7問)、豪雨災害当日の状況(15問)、豪雨災害後の対応(7問)、今後の水害対策(3問)、行政への災害対策の課題についての自由記述(1問)、避難勧告が発表されても避難する人の割合が低いことの問題についての自由記述(1問)、合計49問より構成される。

3 アンケート調査結果

3.1 回答者の属性

回答者の属性は51人中男性39%、女性61%で、職業は、専業主婦・専業主夫29%、会社員・団体職員20%、無職14%、商工業8%、農林業4%、アルバイト・パート4%、建設業1%、その他20%である。年齢層を図5.2に示す。60歳以上の高齢者の割合が全体の70%を占めていて、高齢者の割合が多く少子高齢化が進んでいる地区といえる。次に奈美地区における住居歴を図5.3に示す。10年未満の居住歴が少なく、居住歴が長い住民が多い。また「家庭内に災害時に避難の支援を必要とする高齢者、乳幼児などの災害時要援護者の有無について」を聞いたところ、33%が「いる」と回答した(図5.4)。

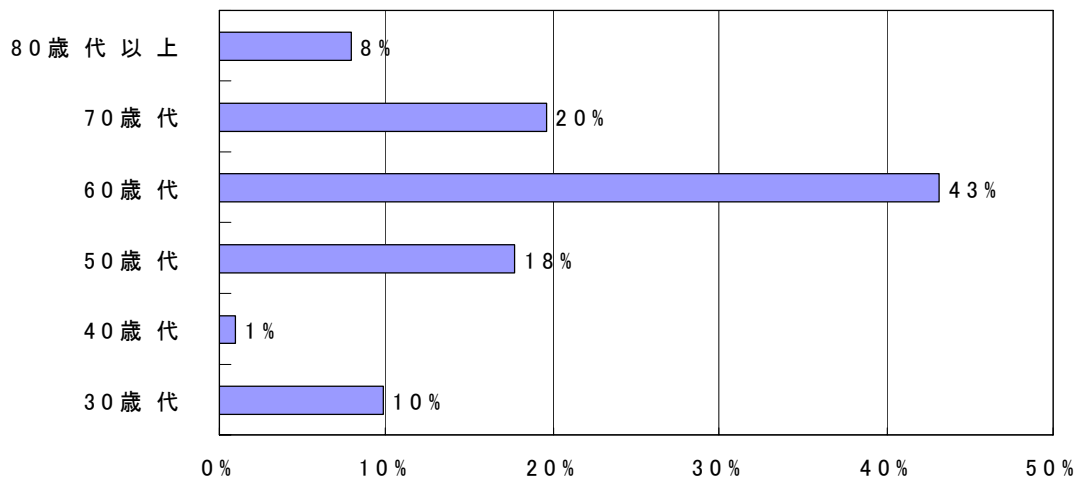


図5.2 回答者の年齢構成 (N=51)

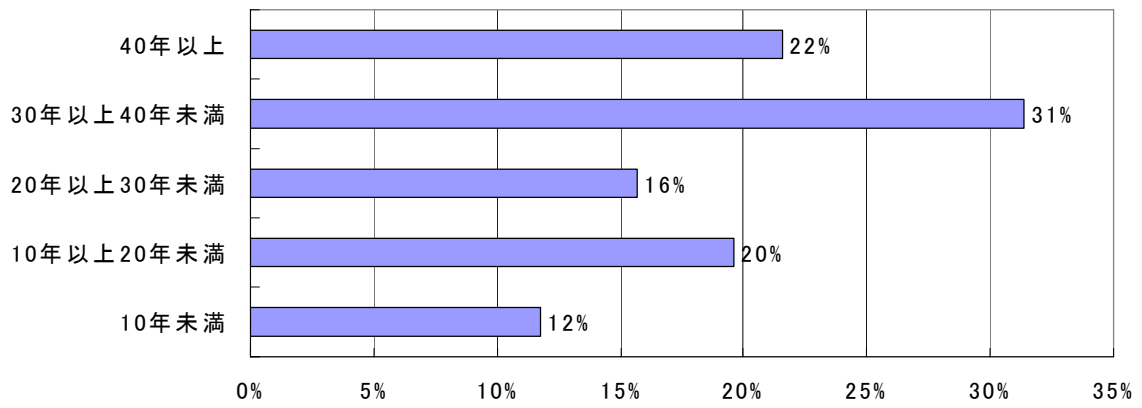


図5.3 奈美地区における居住歴 (N=51)

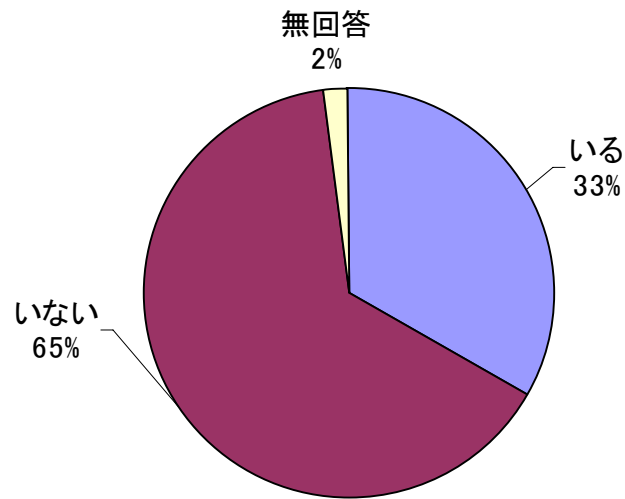


図5.4 災害時要援護者の有無 (N=51)

3.2 防災に対する日頃の備えについて

「自宅における災害への備えについて」複数回答で聞いたところ図5.5のようになった。「懐中電灯」はほとんどの自宅で備えていて、次いで「貴重品持ち出し袋」、「水」、「救急医療品」など備えは半分程度整っているといえる。

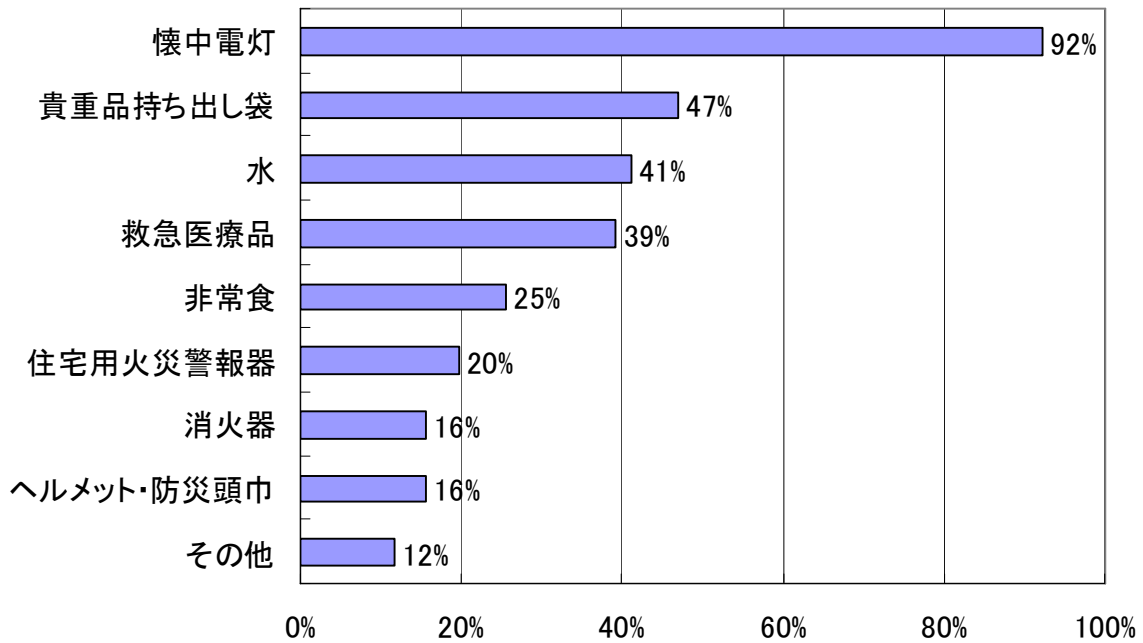


図5.5 自宅における災害への備え (N=51、複数回答)

「避難所の場所を知っていますか」と聞いたところ、図5.6のようになった。82%が「知っている」と答えていて、避難所へ避難するための備えもできているといえる。

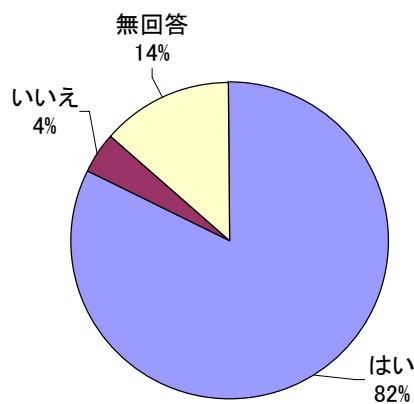


図5.6 避難場所の周知度 (N=51)

また「自然災害や防災に関わる用語について」どれくらい知っているか聞いてみた。

結果は図5.7のようになり、災害用伝言ダイヤルを除いては全体の約60%以上が「知っている」もしくは「大体知っている」と回答し、ある程度の防災知識はあるといえる。

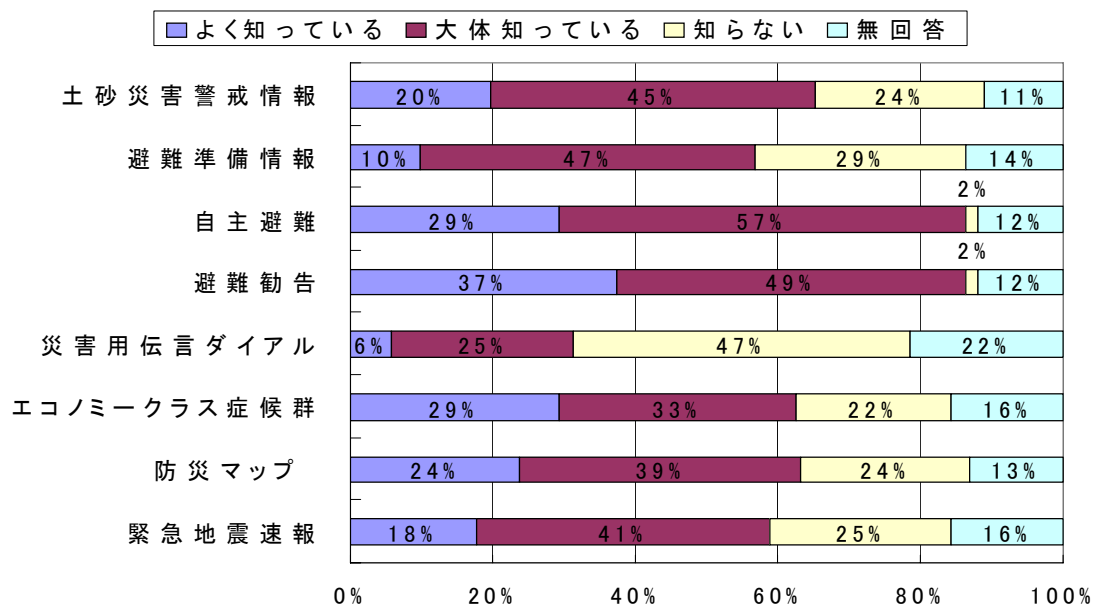


図5.7 防災用語の周知度(N=51)

3.3 奈美地区の状況について

『今回の豪雨災害以前の被災歴について』を聞いたところ、「昭和26年佐波川大豪雨があった」とする回答が数例あったが、今回の豪雨災害が奈美地区で初めての経験である住民がほとんどであった。

次に『自主防災組織の結成』と『防災行政無線の整備』を聞いたところ、いずれも全体の75%が「知らない」もしくは「わからない」と答えた。また『避難訓練の実施』は全体の3分の2が「実施されていない」もしくは「わからない」と回答した。また『災害時に自力で避難が困難な災害時要援護者（高齢者、身障者等）の避難対策』を「決めている」とする回答は14%、「決めていない」53%、「わからない」33%であった。（図5.8）このことから奈美地区における災害に対する備えは十分とはいえなかった。

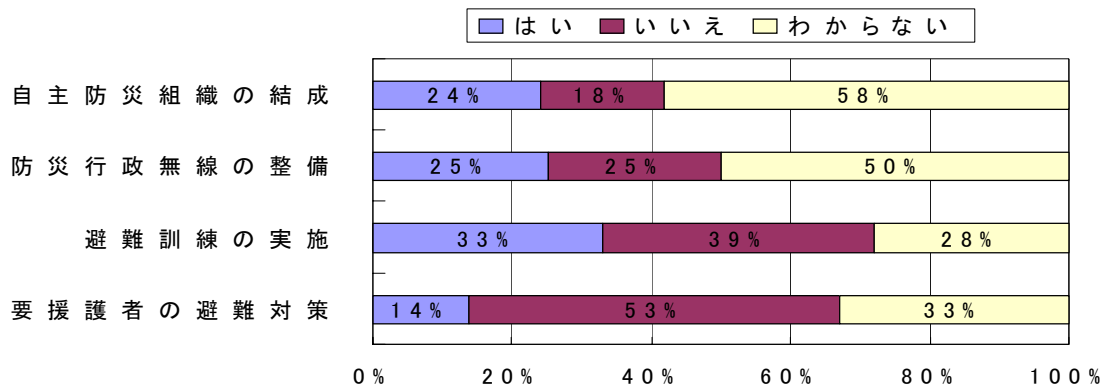


図5.8 奈美地区における日頃の防災の備え (N=51)

『近年の奈美地区の状況について近いもの』について聞いたところ、複数回答で約70%が「山林が荒れてきた」、また35%が「管理されていない田畑や空き地が増えてきた」と回答した(図5.9)。このことから奈美地区は地方都市によく見られる活力がなくなりつつある集落といえる。

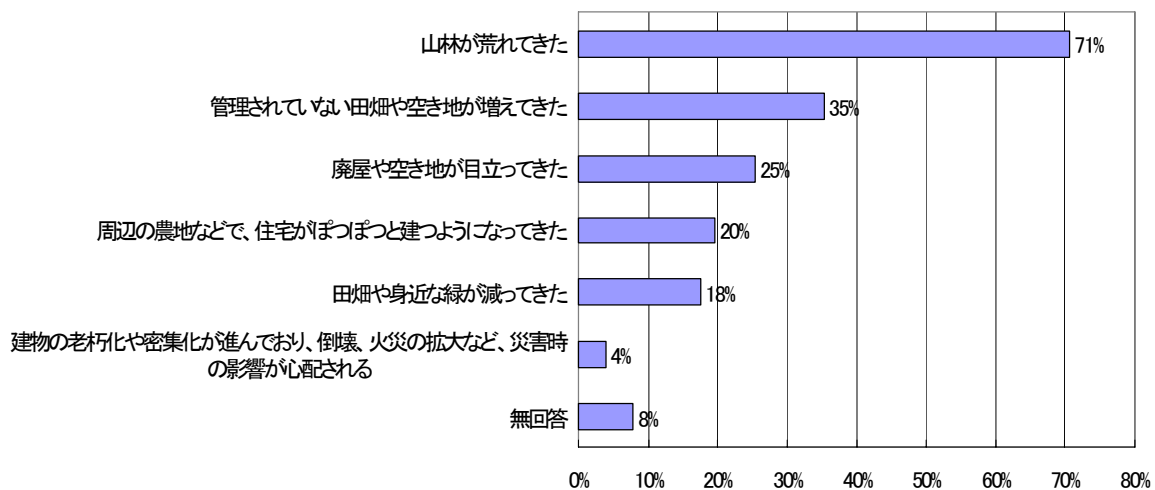


図5.9 近年の奈美地区の状況について(N=51、複数回答)

3.4 豪雨災害時の住民の対応について

『7月21日当日に大雨洪水警報が発表されていたことを知っていましたか』と聞いたところ約50%が「知っていた」と回答した(図5.10)。「知っていた」とした回答者に対して、『大雨洪水警報をどこから知りましたか』と聞いたところ、複数回答で「テレビ」と回答したのはほぼ100%であり、テレビのニュースやテロップからの情報が行き届いているといえる。「携帯電話」や「広報車」などから情報を得た回答は少なかった(図5.11)。また『大雨洪水警報を聞いてどう思いましたか』と聞いたところ「どこかで大雨が降るかもしれないと思った」が約50%、「大雨が降るとは思わなかった」あるいは「市内で大雨が降るかもしれないと思った」がそれぞれ約25%であった(図5.12)。さらに『大雨洪水警報を聞いた後の対応』を聞いたところ、「テレビ・ラジオの情報に注意した」65%、「川や側溝、崖や斜面など周囲の様子を確かめた」とする回答が46%であり、災害に対応する行動を起こした(図5.13)。

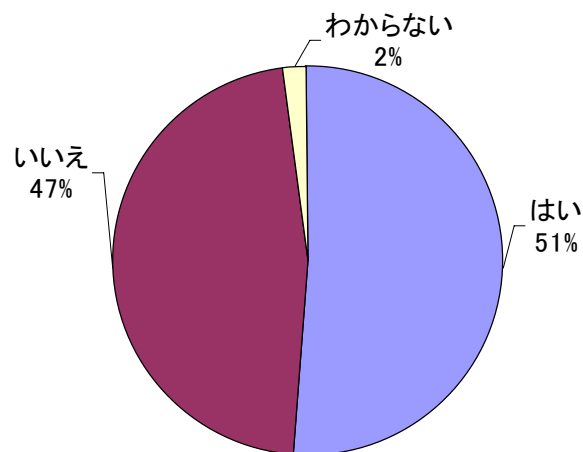


図5.10 大雨洪水警報の周知度(N=51)

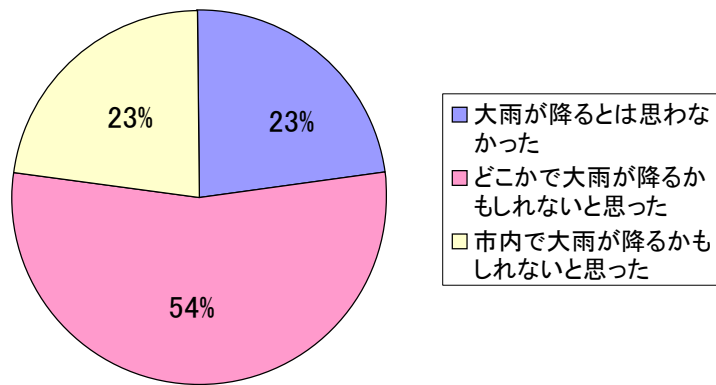


図 5.11 大雨洪水警報を聞いての対応(N=26)

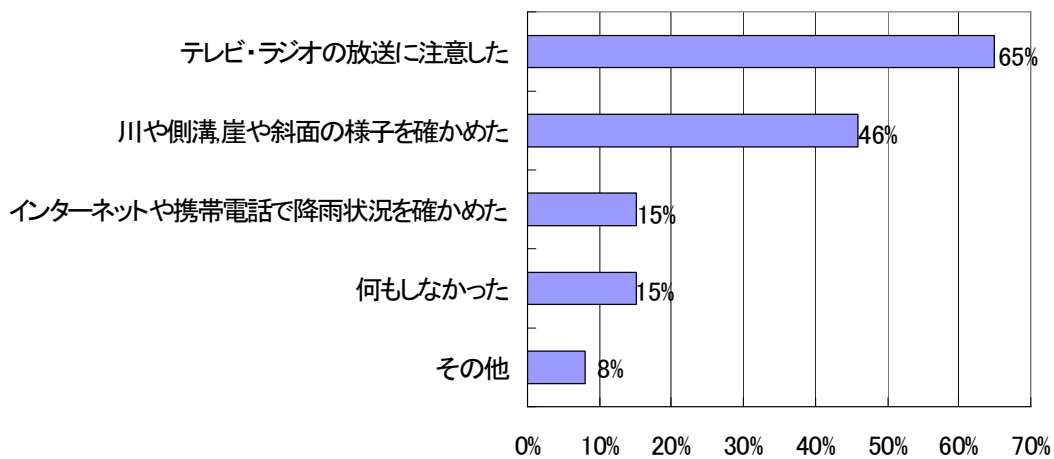


図 5.12 大雨洪水警報を聞いた後の対応 (N=26、複数回答)

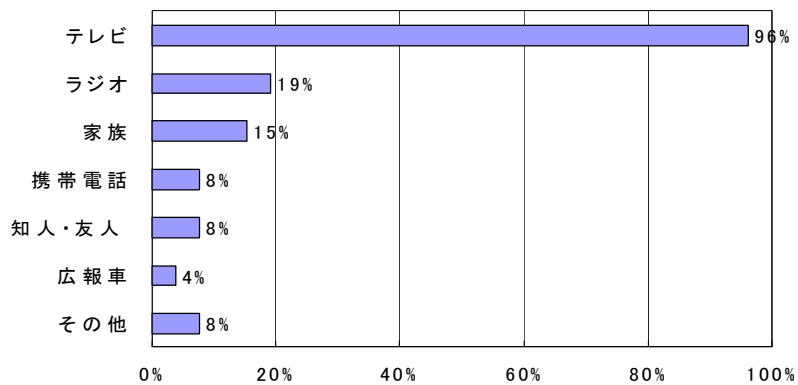


図 5.13 大雨洪水警報の入手情報媒体源 (N=26、複数回答)

大雨洪水警報はおよそ半数が「知っている」と回答したが、『土砂災害警戒情報が発表されていたことを知っていましたか』と聞いたところ「知っていた」とした回答はわずか14%であり、あまり認識していなかったことが明らかになった(図5.14)。「知っていた」とした回答者に対して、『土砂災害警戒情報をどこから知りましたか』と聞いたところ、複数回答で「テレビ」と回答したのは約70%であり最も多かった。中には「ラジオ」や「家族」、「広報車」から情報を得ていた(図5.15)。また『土砂災害警戒情報を聞いてどう思いましたか』と聞いたところ「土砂災害が起こるとは思わなかった」が約40%、「どこかで土砂災害が起こるかもしれないと思った」が約60%であった(図5.16)。「大雨洪水警報を聞いた後の対応」を聞いたところ、複数回答で「テレビ・ラジオの情報に注意した」71%、「川や側溝、崖や斜面など周囲の様子を確かめた」29%など、大雨洪水警報と同じく災害に対応する行動を起こした(図5.17)。

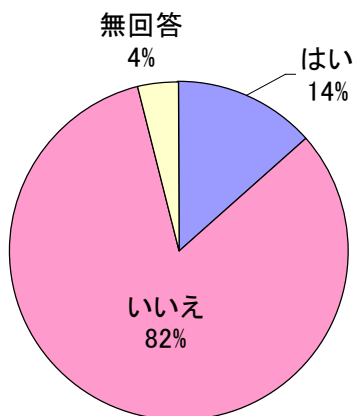


図 5.14 土砂災害警戒情報の周知度(N=51)

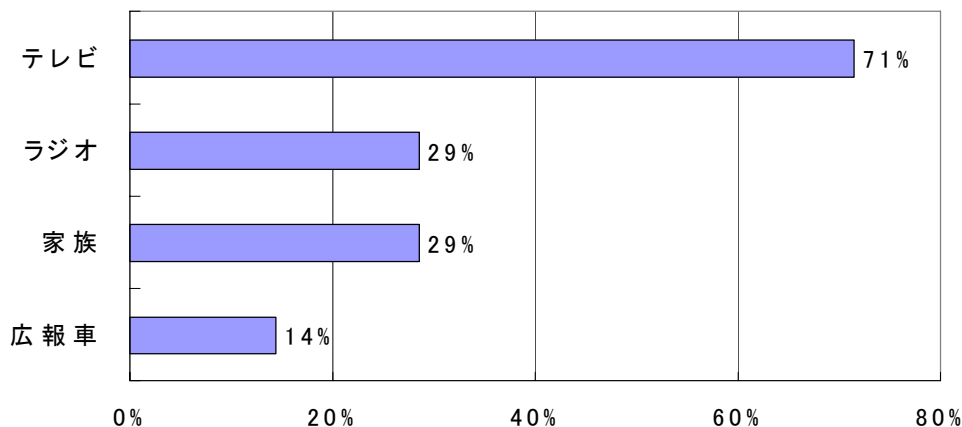


図 5.15 土砂災害警戒情報の情報入手媒体源(N=7、複数回答)

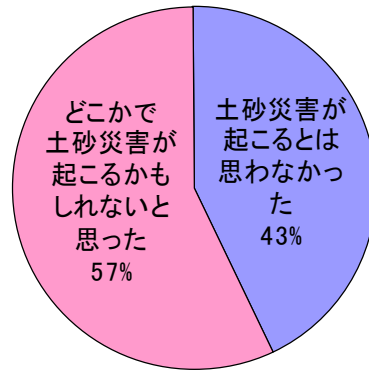


図5.16 土砂災害警戒情報を聞いての対応 (N=7)

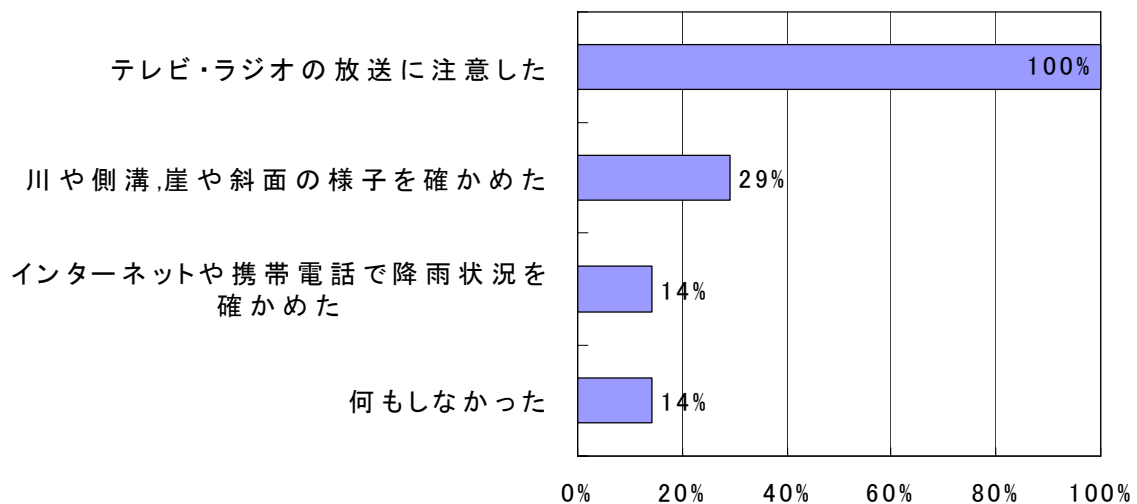


図5.17 土砂災害警戒情報を聞いた後の対応 (N=7、複数回答)

3.5 避難と家屋への浸水状況について

『災害当日に避難しましたか』と聞いたところ「避難した」とする回答は 60%であった。「避難した」とする回答者に対して『避難したタイミング』を聞いたところ、「家屋が浸水や土砂流入した後」もしくは「市役所・消防等から避難勧告を聞いた後」など、災害が発生した後に避難した回答者が約 90%で、自主避難の割合が低いことが明らかになった(図 5.18)。また避難した理由としては「これ以上家に留まっていたら危険だと思ったから」45%、「避難勧告が発表されたから」42%、「災害が発生するかもしれないか

ら」26%などで、災害による被災の危険がせまってから避難する割合が多かった(図 5.19)。避難方法は「避難路を避難所に徒歩で行った」35%、「避難路以外の冠水していない道を通って避難所に行った」26%、「避難所に行けないので、近くの安全な場所に避難した」16%などで、半数近くが指定した避難路を使って避難できなかった(図 5.20)。避難日数は「数日」が61%、「数日~1週間」が16%であったが、長期間避難したケースも有った(表 5.2)。避難所の運営は「十分」もしくは「普通」と回答したのは約81%で問題は少なかった。

表 5.2 避難日数 (N=31)

日 数	%
数日	61
数日~1週間	16
1週間~2週間	11
2週間~3週間	6
1ヶ月以上	6

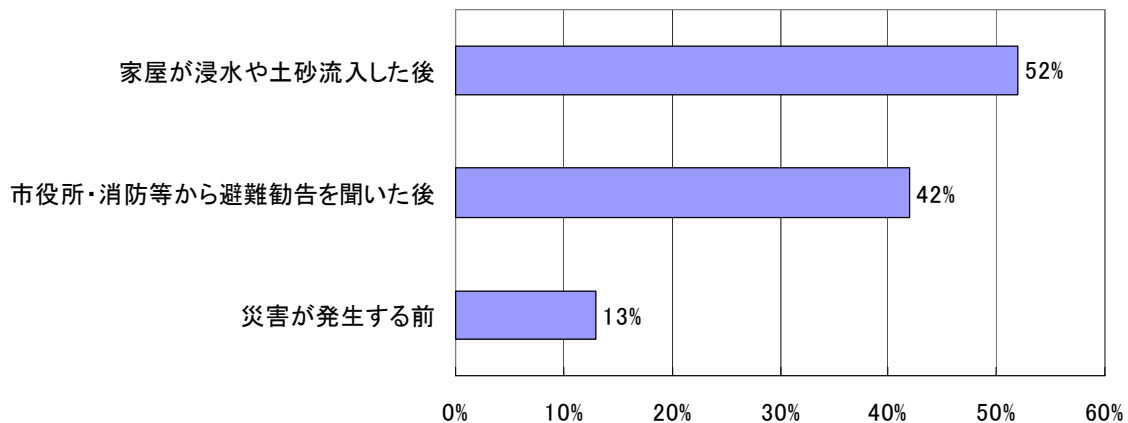


図 5.18 避難したタイミングについて (N=31、複数回答)

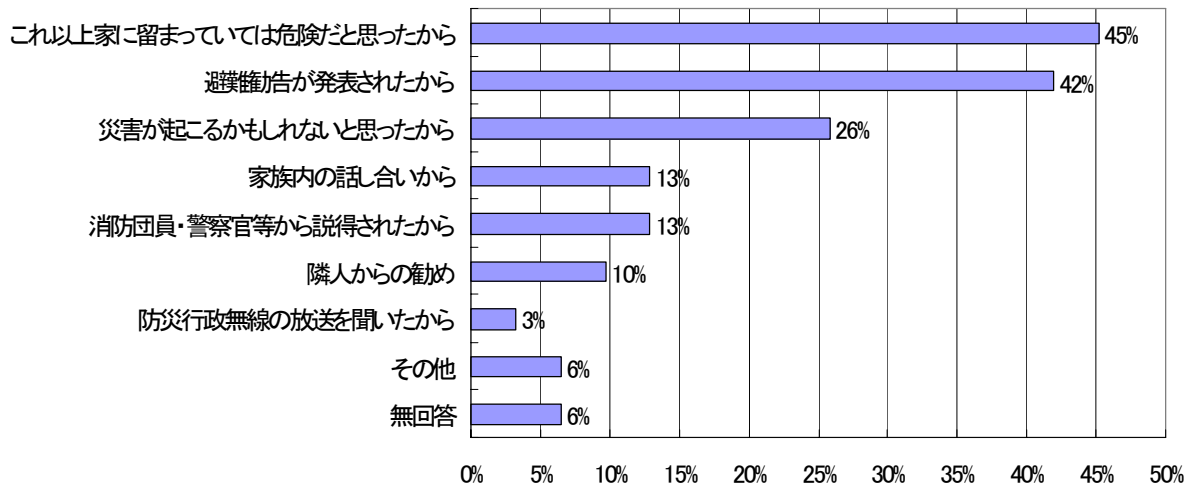


図 5.19 避難した理由について(N=31、複数回答)

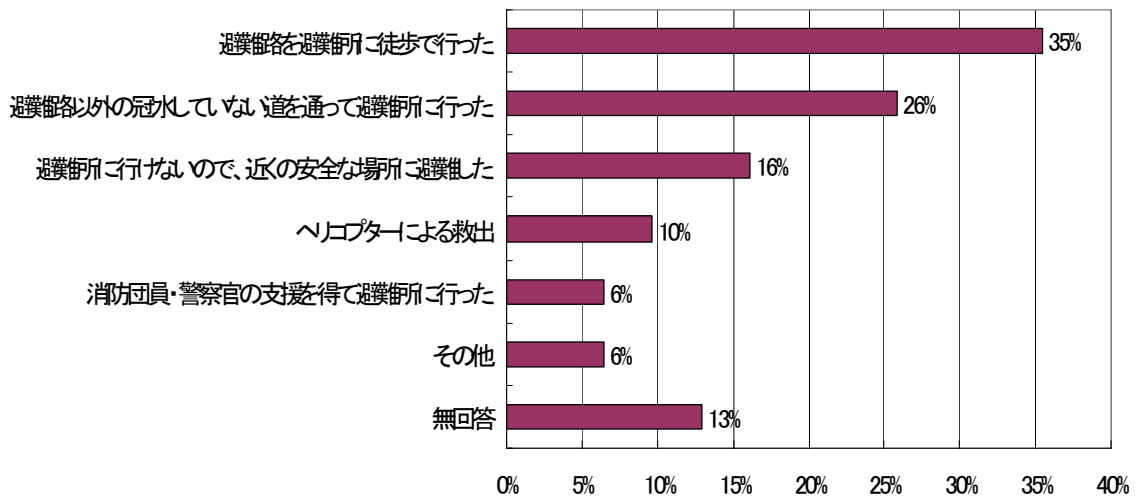


図 5.20 避難方法について(N=31、複数回答)

家屋への浸水被害については、「床下浸水」37%、「床上浸水」27%、「1階水没」が10%で、家屋内の浸水被害が多かった(図 5.21)。住民の方によれば、家屋内の堆積土砂の除去にかなり時間を要し、ボランティア活動の方にも協力してもらい除去してもらったという。復旧作業に数ヶ月かかった住宅も多くあり、また半壊した住宅も一部あり、元の生活に戻るまでに時間がかかった。地区内には土砂災害や水が浸入して住めなくなった家も残されている(写真 5.1)。

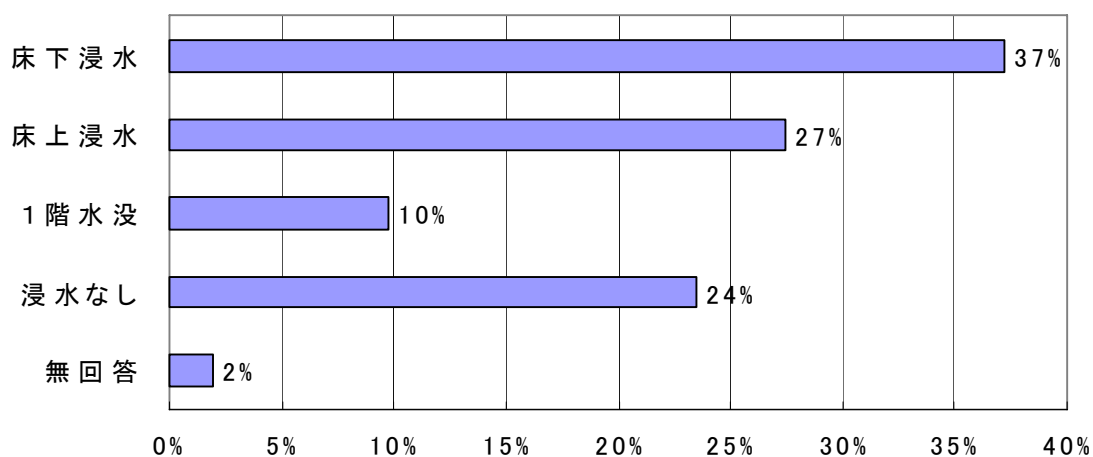


図 5.21 家屋への浸水状況(N=51)



写真 5.1 奈美地区松ヶ谷川中流付近の半壊の住宅

撮影日 2009年10月30日 撮影者 清水誠

3.6 下流域・中流域・上流域ごとの家屋の浸水状況について

下流域、中流域、上流域の家屋の浸水状況について図5.22に示す。下流域と中流域では浸水被害の差がないが、上流域はすべての家屋が床上浸水の被害を受けている。

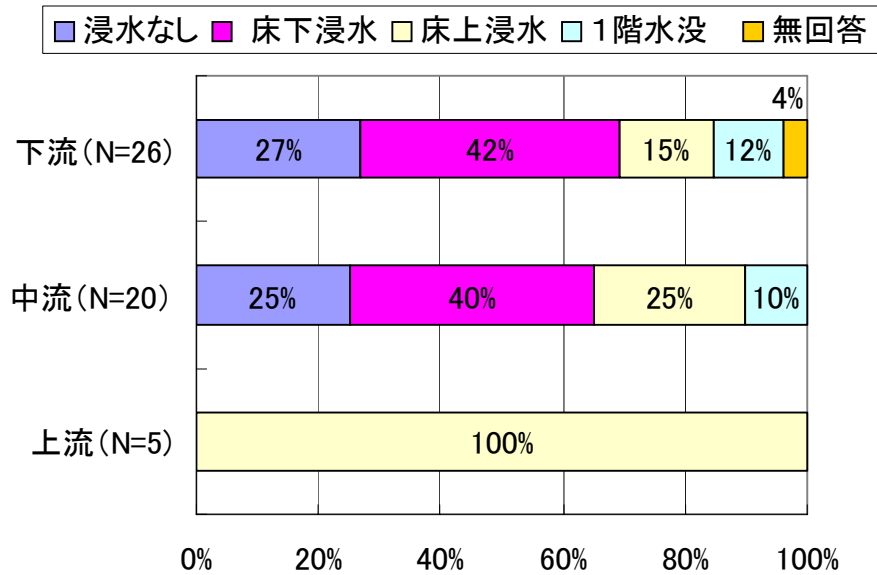


図5.22 下流・中流・上流ごとの家屋浸水被害

3.7 下流域・中流域・上流域ごとの当日の避難について

下流域・中流域・上流域ごとの住民の避難状況について図5.23に示す。下流域、中流域の住民は半数以上が避難していて、上流域の住民は全員が避難した。

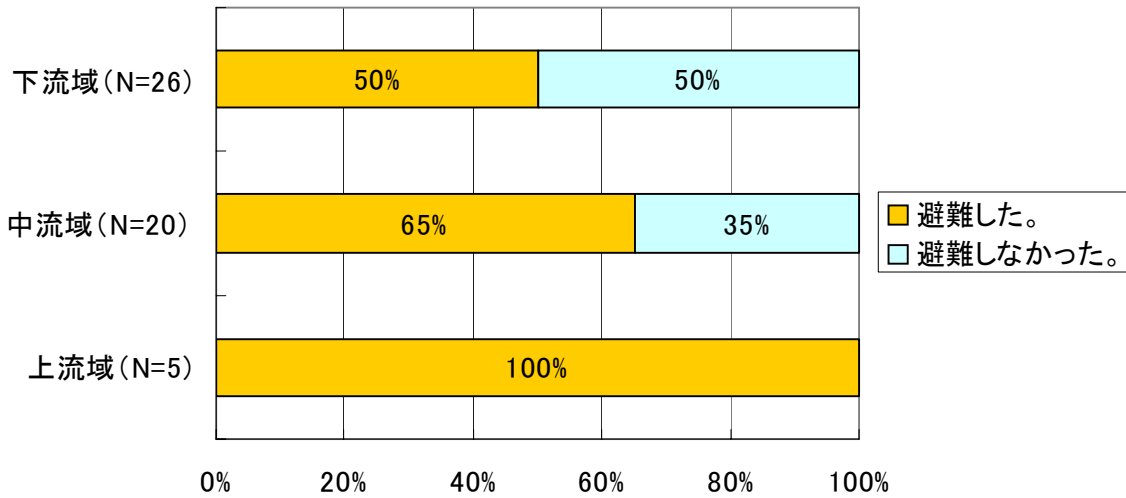


図5.23 下流域・中流域・上流域ごとの住民の避難状況

避難したタイミングについて図5.24に示す。複数回答で下流域では「市役所・消防署から避難勧告を聞いた後」に避難した住民が半数で、中流域、上流域では「家屋が浸水や土砂流入した後」に避難した住民は60%を占めた。「災害が発生する前」に避難できた住民は下流域や中流域の一部のみであった。

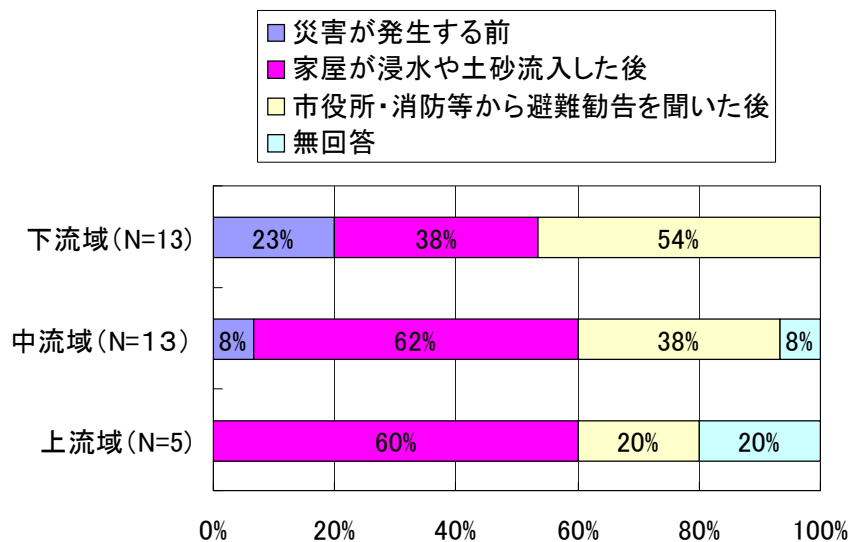


図5.24 避難したタイミング (複数回答)

避難した理由について図5.25に示す。複数回答で全体的に「これ以上家に留まっては危険だと思ったから」、「避難勧告が発表されたから」、「消防団員・警察官などから説得させられたから」などの理由が多く、上流域の住民はかなり危険を感じて避難したといえる。

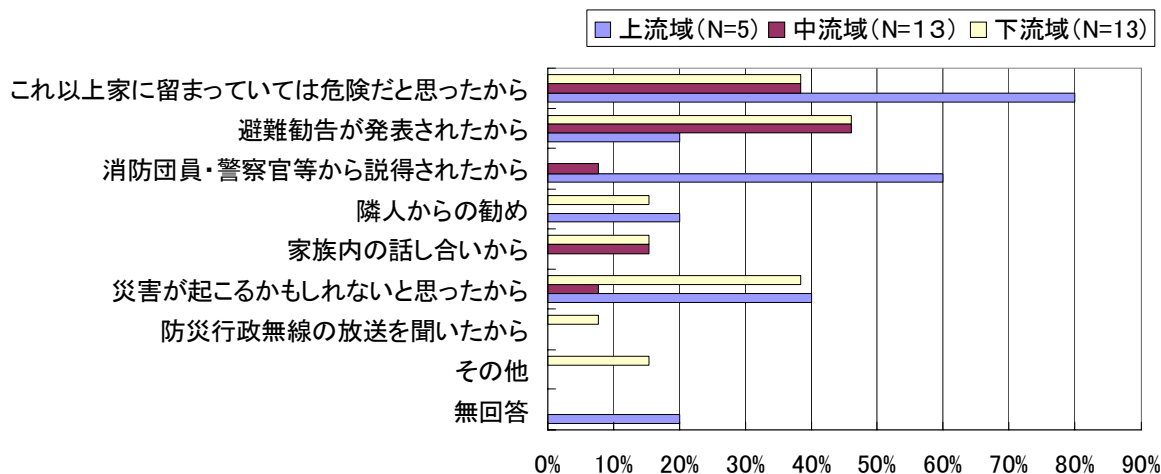


図5.25 避難した理由について（複数回答）

避難方法について図5.26に示す。全体的に「避難路以外の冠水していない道を通って避難所に行った」が多かった。「避難路を避難所に徒歩で行った」という住民は下流域、中流域の住民それぞれ約40%で、上流域の住民は「ヘリコプターによる救出」や「消防団員・警察官の支援を得て避難所に行った」など、避難するだけでも支援が必要であったといえる。

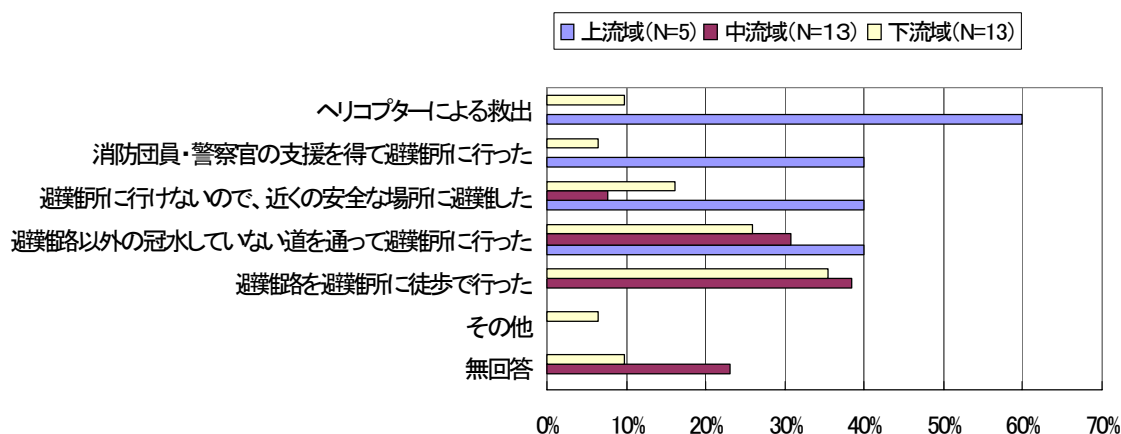


図5.26 避難方法について（複数回答）

3.8 災害後の対応や今後の災害対策について

災害後におけるボランティア活動、住民および市町村の対応評価を図5.27に示す。災害復旧過程で家屋内の土砂の撤去作業などを行った『ボランティアの活動』は評価が最も高かった。次に災害時の自主避難、自主防災活動の『住民の対応能力』は60%が「十分」もしくは「普通」と回答した。しかし、災害時の情報伝達、避難勧告の発令、災害復興、被災者対策などの『市町村の対応能力』や『行政支援制度などの情報提供』はいずれも「不十分」とする回答が約60%を占めた。市町村の対応能力については「全体的な対応が遅い」といった声もあり、今後、災害時や被災者の支援時の対応について検討する必要がある。

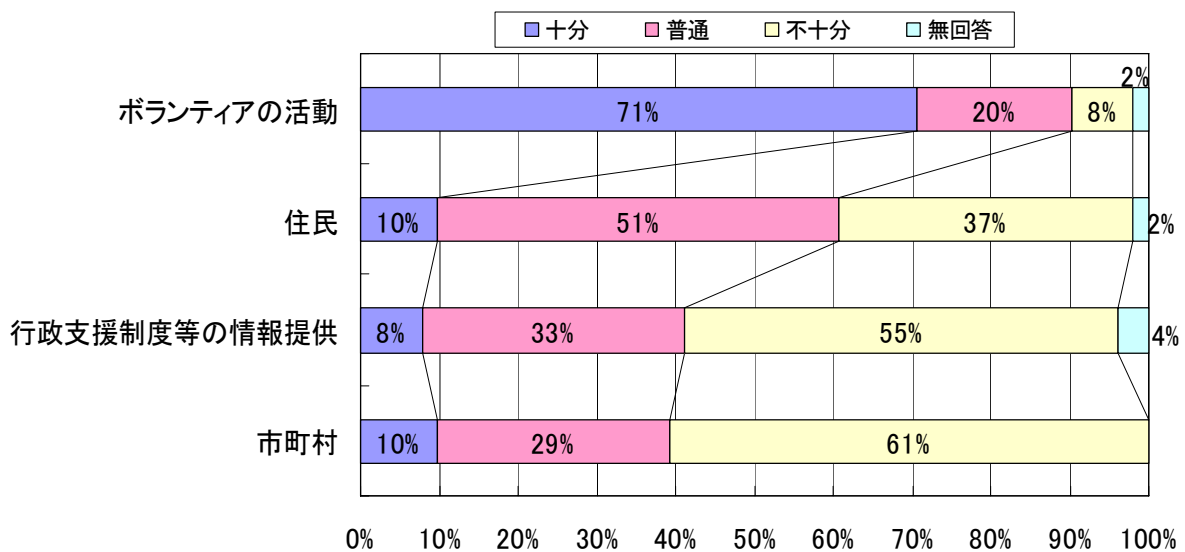


図5.27 ボランティアの活動、住民、情報提供、市町村の対応評価(N = 51)

今後の災害対策において『水害時の避難では自宅や近くの高台に避難する高所避難』の導入の賛否について聞いたところ「安全な高所を確認したところを指定すべきである」61%で、「ぜひ導入すべきである」20%で、高所避難先の安全の確認を導入の前提としている(図5.28)。

今回の豪雨災害を経験したことを踏まえて地域の災害時の課題を聞いたところ、「安全な避難場所がないこと」、「川に囲まれた地域では安全な避難経路がないこと」、「行政からの情報が不足したこと」、「災害時の行動マニュアル、避難訓練が不足していたこと」、「山腹崩壊などの前兆現象があったときの連絡先」などが挙げられた。避難勧告等に従わない理由を確かめたところ、数多くの見解が挙げられたが、避難しないことを正当化する意見が目立った。今後は地区の避難計画を作成する場合、地域と行政との話し合いや地域内の話し合いが必要なことを示唆している。

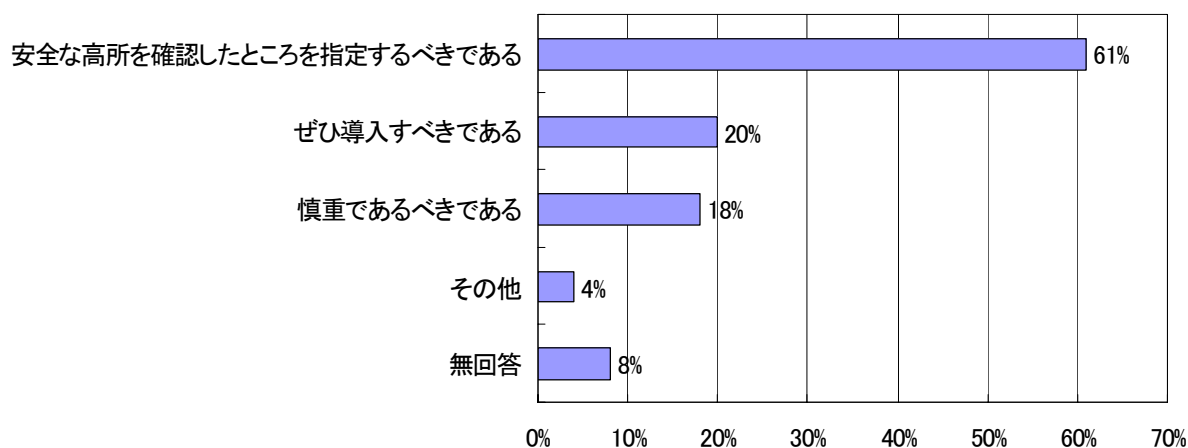


図5.28 高所避難の導入の賛否 (N=51、複数回答)

また「土石流・がけ崩れ・地すべり等の土砂災害に対する防災工事は、営々となされているが、進捗状況は低い状況にある中での今後の防災工事の見通しについて」聞いたところ、図5.29のようになった。

「速くなる」、「変わらない」、「遅くなる」ともあまり差がない割合であり、はっきりと断言することはできない。「大雨警報の基となる気象予報の正確さについて」聞いたところ、図5.30のようになった。約70%が「かなり向上する」もしくは「少しずつ向上する」と回答し、気象庁の気象予報の正確さの向上を求めているといえる。

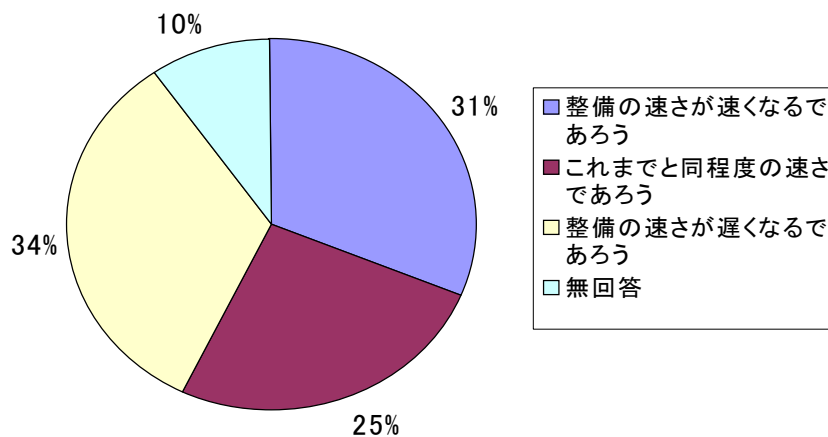


図5.29 防災工事の正確さについて(N=51)

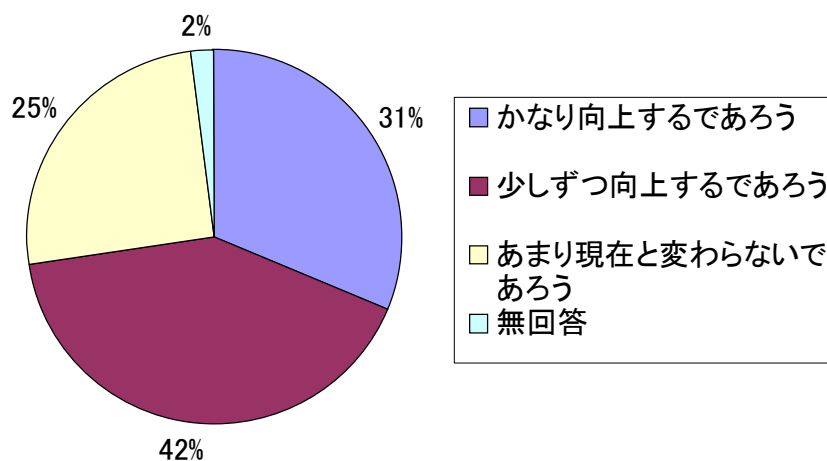


図5.30 気象情報の向上について(N=51)

4 災害に対する課題と自由記述

今回の水害を体験して、国（気象庁、国土交通省、内閣府等）、都道府県（山口県）、地方自治体（防府市）、市町村（奈美地区）ごとにおける災害対策の自由記述欄に記入して頂いた主な内容を以下に示す。

（1）国（気象庁、国土交通省、内閣府等）

- 当日の現状認識が低いのでは？
- 被害の基準が低い。
- 行政側は国・県・市と連携して災害の起きる前に防災対策にもっと取り組んでもらいたい。
- また次の雨期までに根本的安全対策
- 災害復旧で砂防ダムを建設する説明会で、建設するダムが、今回のような災害が起きた場合、持ちこたえることができるのかという質問に、明解な返事がない。後日の説明では上流にいくつかの砂防ダムを建設するとのことだが、いつになるかわからないとのこと。
- 8月に入って国・県・市とのこれからの説明がありました。今まではかどうなっているのでしょうか？
- 山間地域において時間降水量が60~70mm/hは災害が起きるか起きないかのボ-ダ-ラインであることを強く認識して欲しい。
- 国は復旧する義務があるのに未だに義務を果たしていない。
- 今ごろのマスコミは命を張っても現場まで立ち入って現状を伝えることがなく避難者から聞き流すことが多いため先発隊を組織すべき。
- 近年ゲリラ豪雨などの異常気象に対するより、迅速な情報取得のための研究が急務である。
- 田畑が未だに荒れている。いつごろになったら工事にかかってくれるのか知りたい。

（2）都道府県（山口県）

- 当日の現状認識が低いのでは？
- 対応が遅い。
- 亡くなられた方は気の毒であるが、他の地区でも河川の流れ山林の土砂崩れ排水の便など早々に。
- 砂防ダムが土砂でほとんど埋まっているのが問題。（定期点検が必要）
- 災害の場所を巡り、県と市土木、国道交通省で取り組み、テリトリ-が不明。
- 奈美川の堤防がくずれ川沿いの生活道路が痛んできて放置してあるので早急に応急措置して欲しい。
- 生活道路が早く復旧して欲しい。
- 知事が来たけれど対応が遅い。
- 住民の安心と安全を最優先に国に協力をお願いすること。
- 雨が降れば夜も安心して寝れないので早く砂防ダムの建設に取りかかって欲しい。
- 砂防ダムの機能維持に努力して欲しい。
- 土砂の流量、流速を抑制する機能は完全になかったと思う。
- 松が谷川の大小4箇所の砂防ダムはすべて、土砂、流木ですでに満杯であった。
- 一般道路が早くよくなるようにお願いしたいです。
- 現場に先発隊を送り情報を正確に伝えるべきである。
- 情報提供をすばやくして欲しい。
- 今回のように複数の市町村で一度に多大な災害が起きた場合の対応のマニュアルの練り直しが必要なのでは？
- 情報によると県は早い段階で、危険な状態であると市に通報したいとのことなので県の対応はNG。
- 田畑が未だに荒れている。いつごろになったら工事にかかってくれるのか知りたい。

（3）地方自治体（防府市）

- 当日の災害状況を本部がどの程度把握し判断したか不明で対応にばらつきがある。
 - 対応が遅い。
 - 災害が今までありませんでしたが、防災対策などは住民に伝えるようしてもらいたい。
 - 道路の土はとったが個人の田んぼや敷地内の土の除去はしてくれないのでやって欲しいのと市道を早く直して欲しい。
 - 今まで災害が少なかったため対応・対策に要領が悪かった。
-

- 避難所には地区のことを良く知っている人を配置して欲しい。
- 生活道路の復旧整備を迅速にして欲しかった。
- 市役所の対応の悪さは今後の課題にして欲しい。
- 国や県に早期復旧をお願いし早く予算化して実現すること。
- 今にもってあまり進んでいない。
- 災害情報伝達など対応が遅れたと思います。
- 災害とあまり縁がない市なので災害対策もできていなく、後の対応も全く信頼のないものでした。
- 対応が遅い。(対応していないと思う)
- 床下も床上も心痛は同じであると思うが、義援金どう配金されたのか？
- 道だけでも元に戻してください。
- 特にモニタ - 制度を設けてはどうか身近な生の情報が得られると思う。
- 補修が遅れるため林道を市道に格上げしてもらいたい。
- 一般道路が早くよくなるようにお願いしたいです。
- 避難勧告を出すのがあまりにも遅すぎた。
- 避難場所ではハンドマイクを使って避難すべきである。みんなに伝わらない。
- ライフライン・道路の情報提供を素早くして欲しい。
- より速く正確な情報の伝達と共有をしっかりと。
- 谷川の安全対策をお願いします。
- 何事についても遅く全くあてにならない自治体の災害の経験がないとはいえ、あまりに粗末な対応でプロでない。あってもなくても一緒で全く世話になっていない。
- いろいろ田畑の工事に取り掛かるのかこれぐらいのことは知りたい。

(4) 地域(奈美地区)

- 川の橋も自分自身が架けて、県に毎年県の川ということで使用料を納付しております。その橋も見事にやられてしまいました。
 - 避難マップを作っても川に挟まれている私たちのところはどうにもなりません。
 - 地区の防災組織がよく活動しなかった。
 - 情報不足。
 - 公民館が避難場所になっていたが役に立っていないので避難場所がもう少したくさんあるとよいと思います。
 - 地区の方々は団活早々に活躍皆一本になり協力あり。
 - 連絡がない。
 - 安全な避難の場所の確保。
 - 住民が協力して復旧に努力し協力すること。
 - 避難地区の場所の確保を早急にしなければいけない。
 - 避難訓練を定期的実施する。(避難行動やマニュアルの作成・配布)
 - 初めてのことで皆さんびっくりでしょう。気象予報にも注意します。
 - まさか自分たちの地区がこのようなとは誰も思っていなかったと思います。
 - 早い対応だった。
 - ボランティアの方も入る地区はすぐ土砂をとり直しましたが、1ヶ月近くも車もボランティアの方も来られずほんとに困りました。住民が一体となって頑張ったと思います。
 - 今回山腹の崩落を目の前において、どのように連絡したら誰にどこへというマニュアルの整備。(たとえ小さな情報でも遠慮なしに連絡する)
 - そのときの状況で避難場所は変わらぬと思うのではっきりした場所の確認が欲しい。
 - 自治会のライフラインの対応を考える。
 - 被災の軽重にかかわらず、被害地域や個々の箇所を早期に把握して、近隣に伝達することで孤立する被災者を防げるのでは？
 - 奈美地区の人たちでは金銭的に無理なので国が早くやってほしい。
-

国・県・市に対して共通

- 連携がなされていない。
- 正確な情報の伝達。
- 住民との対話会において安心感を与える発言をして不信任・不安を感じさせないこと。
- 誠実さが無い。
- 行政はすべて縦割りで担当のこと以外の責任はとれないようです。
- もっと円滑な対応ができないものかと思います。
- 県や市の避難勧告が遅い。

次に避難勧告が発表されても避難する人の割合が低いことの問題についての考え方を自由記述して頂いた

主な内容を以下に示す。

-
- 発表が出れば避難すると思いますが、やはり自分の身は自分でないと守れません。
 - 第二の災害が考えられるので自分はいらぬというのではなく、行動はいっしょにとらないと人に迷惑をかけることになる。(今回夫は集団生活が無理なので避難所に行きませんでした。)指示があれば早く従うべきであると思います。
 - 勧告がでたらそれに従うほうがよいと思います。
 - 独居老人も多いが、役員が車で移動があると幸い。
 - 伝達不足・住民の意識の低さなどいくつかの問題があるように思うのと勧告の段階で避難するのは難しいと思う。
 - 自主避難は問題あり。(個人判断)
 - 班や地区の役員が説得しないとだめである。
 - 地区のお世話をしてくださる方に従って行動するのが良いと思います。
 - 家のことや仕事や自分や家族の環境を考え、自宅から離れにくい場合もあると思う。
 - 避難勧告が出て今までにない経験だったので、大丈夫という安心感もあった人が多いはず。
 - 災害マップを見たことがない人が多く、市の対応も不十分であり災害が起きて、初めて気づくことが多かった。
 - 命がまず優先されること、確かな情報を早く広め避難誘導をしっかりして欲しい。
 - 避難所の形態が良くないのは個人のプライバシーが保てないからではないか？
 - 自分の家は自分で守る主義、避難しては始まらない。
 - 奈美地区の場合は安全な避難場所を確保していないので災害の状況により判断しなくてはならない。
 - 今回に限り避難所が水害に遭い1箇所集中していたためなので遠慮せざるを得ない事情があった。
 - 情報ははっきりと正確に伝えないから。
 - 通常日々の生活が孤立化しているので団体生活に溶け込めないのではないかと。
 - 被災者同士の協力が必要である。
 - 避難するように家を訪問しても避難しない。
 - 避難勧告が発表された場合は次からは多くの人に参加されると思う。
 - 災害の経験のない地区はすべてそう考えていると思うので、どのような被害が起こりうるのか日ごろから地区でよく考えることが大切であると思います。
 - 今頃はペットを飼っている家が多いですがこの度の災害でも犬はおとなしくしていても衛生上悪いと
-

いわれ、車の中で犬と生活された方もいます。区別して避難するところを考えて欲しいと思います。

- 親戚がある人は良いのです。
小学校・公民館と避難された方はきちがいになりそうと言われていました。家が残っていても帰ることができませんでした。あまりに対応が遅すぎると思います。夏の一番暑いときで蚊に刺されるや風呂に入りたいなどで困った。
- 地理・地形的に住宅環境が異なる住民を画一的に避難させる方法に不合理を感じているのではないかと思います。地域においてももう少し災害に適応した避難形態を自主検討するほうが良い。
- 避難すれば気になる自宅の近況も知りたいが、安全を盾になかなか自宅に戻らせてもらえないなど制約があり積極的になれない。
- テレビで災害の映像を見るが、実際に体験しなければ分からない。
- 今まで災害が起きていないので大丈夫だろうという考えがある。
- 災害の大小により避難した中に人のことをいつまでも避難所にやっかいになっていると、言って回る人が出てきたことについて寂しいことですね。
- 災害が夜であったら避難するのは困難であるから私はしないとします。安全な場所であつ自分で判断できなければその方がいいのではないのでしょうか？
- 本人の考え方の違いだと思います。しかし、今回のことで避難する人が増えていくと思います。
- 共同生活がいやであると思うから。
- 避難は2、3日が限界だと思う。
- より正確な情報と危険度を示す明確な数値なりの判断があれば避難しやすいのではないかと？
- 今までこういった災害はなかったので、ただびっくりした。慌てたというのが本音です。でもこれからは異常気象のためこんな災害が発生する可能性は高いと思うので避難勧告は注意して危険と思う場合は早めに対応しようと思いました。皆さんもそう思われた方が多いのでは？
- 実際に災害を経験していなかった私は避難勧告が出て避難するほどのものではないと軽く受け止めていたところがある。災害の起きる前にどこがどうなる可能性があるので危険であり避難する必要があるということを普段から説明していき、情報提供していくことが大切であると思います。私も含めて自分は災害とは無関係であり、他人事のように考えていると今日のような被害の大きさにつながるのかと反省しております。
- 避難場所が狭い。
- 夏だったので人が多くて暑さに耐えられない。
- 眠りにつけない。

5 まとめ

本章では豪雨災害における住民の対応について災害への普段の備えや、奈美地区の状況、当日の対応状況、今回の豪雨災害を踏まえての今後の対策についてアンケート調査を行いその結果をまとめた。全体的に行政の対応と同じように住民の対応や奈美地区の状況などにも問題があり、行政と共に災害に向けた取り組みを実施しなければならないといえる。以下にアンケート結果を項目別にまとめる。

回答者の属性については全体の70%が60歳以上の高齢者であり、災害時要援護者も全体の3分の1いて少子高齢化が進んでいる地区であるといえる。居住歴は30年以上か30年未満で半々であった。

普段の防災に対する備えについては、自宅での備えはある程度行っていて、避難所の場所や、防災用語もある程度は知っていて備えは十分であったといえる。

奈美地区の状況については、過去の被災歴は50年以上前のことで、今回の豪雨災害が奈美地区で初めての経験である住民がほとんどであった。自主防災組織の結成や防災行政無線の整備、避難訓練の実施、災害時要援護者の避難対策について知っている住民は少なく、奈美地区における災害に対する備えは十分とはいえなかった。また近年の奈美地区の状況については「山林が荒れてきた」、「管理されていない田畑や空き地が増えてきた」など奈美地区は地方都市によく見られる活力がなくなりつつある集落といえる。

当日の豪雨災害時の住民の対応については、大雨洪水警報が発表されていたことを半数の住民が知っていたのに対し、土砂災害警戒情報の発表については多くの住民が知らなかった。情報入手の媒体源はテレビやラジオが多く、情報を聞いた後での対応もテレビやラジオの情報に注意するなど災害に対応する行動を起こしたといえる。

避難については、災害当日に避難した住民は60%で、災害による被災の危険がせまってから避難する割合が多く、指定した避難路を使って避難できなかった。避難日数は数日から1週間が最も多く、中には1ヶ月近く避難した住民もいて、避難所の運営には特に問題はなかった。

家屋の浸水被害は全体の75%が浸水した。浸水しなかった家屋もあったが、土砂や水が大量に浸入し、被災後のボランティア活動による除去作業にも時間を要して復旧に数ヶ月近くかかった家屋や、半壊して住めない状態になった家屋もあった。

災害後の対応や今後の災害対策については、市の対応があまりよくないことを住民も指摘している。今後は奈美地区の避難計画を作成する場合、地区の自治会長や行政との話し合いや地域内の話し合いのもとで災害時や被災者の支援時の対応について検討する必要がある。また水害時の避難時には高所避難を高所避難先の安全の確認を導入の前提とし、導入するべきであるといえる。

上流域・中流域・下流域ごとにおける家屋への浸水状況は上流域では全軒が床上浸水で、中流域、下流域では浸水しなかった家屋も一部あったが、床下浸水や床上浸水、水没などの浸水被害を受けた。また当日の避難状況は、上流域の住民は避難せざるを得ない状況で、中には救助支援を求めて避難した住民もいて、下流域、中流域と比べてかなり危険な状態であったといえる。

次に行政における災害対策と避難勧告が発表されても避難する人の割合が低いことの問題について自由記述欄に記入して頂いた内容をまとめる。

水害を経験したことを受けての災害時の課題を聞いたところ、安全な避難場所がないこと、川に囲まれた地域では安全な避難経路がないこと、行政からの情報が不足したこと、災害時の行動マニュアル、避難訓練が不足していたこと、山腹崩壊などの前兆現象があったときの連絡先などが挙げられた。また避難勧告が発表されても避難しない理由として、数多くの見解が挙げられたが、避難しないことを正当化する意見が目立った。地区の避難計画を作成する場合、地域と行政との話し合い、地域内の話し合いが必要なことを示唆している。

防府市奈美地区水害アンケート集計

各項目について、一つだけ選んで、印を付けてください。指示がある場合のみ、複数個お選びください。

1. あなたご自身についてお伺いします。

問1 あなたの性別は次のうちどれですか。(N=51)

項目	人数(人)	(%)
(1)男	20	39
(2)女	31	61

問2 あなたの年齢は次のうちどれですか。(N=51)

項目	人数(人)	(%)
(1)20歳代	0	0
(2)30歳代	5	10
(3)40歳代	1	1
(4)50歳代	9	18
(5)60歳代	22	43
(6)70歳代	10	20
(7)80歳代以上	4	8

問3 あなたのご職業は次のうちどれですか。(N=51)

項目	人数(人)	(%)
(1)農林業	2	4
(2)水産業	0	0
(3)商工業	4	8
(4)建設業	1	2
(5)自由業(医師、会計士、芸術家、宗教家など)	0	0
(6)会社員、団体職員	10	20
(7)公務員	0	0
(8)アルバイト、パート	2	4
(9)学生	0	0
(10)専業主婦、専業主夫	15	29
(11)無職	7	14
(12)その他	10	20

問4 水害当時、お住まいの住宅での居住歴はどのくらいですか。(N=51)

項目	人数(人)	(%)
(1)10年未満	6	12
(2)10年以上20年未満	10	20
(3)20年以上30年未満	8	16
(4)30年以上40年未満	16	31
(5)40年以上	11	21

問5 あなたのお宅には、災害時に避難の支援を必要とする高齢者、乳幼児などの災害時要援護者がいますか。(N=51)

項目	人数(人)	(%)
(1)いる	17	33
(2)いない	33	65
無回答	1	2

2. 日頃の個人の備えをお聞きします。

問1 あなたのお宅では、災害に備えてどのような備えをしていますか。

該当するものをいくつでもお選びください。(N=51、複数回答)

項目	人数(人)	(%)
(1)ヘルメット・防災頭巾	8	16
(2)懐中電灯	47	92
(3)非常食	13	25
(4)水	21	41
(5)救急医療品	20	39
(6)貴重品持ち出し袋	24	47
(7)消火器	8	16
(8)住宅用火災警報器	10	20
(9)その他	6	12

問2 災害時の避難所を知っていますか。(N=51)

- (1)はい
(2)いいえ

項目	人数(人)	(%)
(1)はい	42	82
(2)いいえ	2	4
無回答	7	14

問3 あなたは、自然災害や防災に関わる用語をどの程度知っていますか。

項目	よく知っている		大体知っている		知らない		無回答	
	人数(人)	(%)	人数(人)	(%)	人数(人)	(%)	人数(人)	(%)
(1)土砂災害警戒情報	10	20	23	45	12	24	6	12
(2)避難準備情報	5	10	24	47	15	29	7	14
(3)自主避難	15	29	29	57	1	2	6	12
(4)避難勧告	19	37	25	49	1	2	6	12
(5)災害用伝言ダイヤル	3	6	13	25	11	22	11	22
(6)エコノミ-クラス症候群	15	29	17	33	11	22	8	16
(7)防災マップ	12	24	20	39	12	24	7	14
(8)緊急地震速報	9	18	21	41	13	25	8	16

3. 奈美地区の状況についてお教えてください。

問1 今回の水害より前に、お住まいの家屋が浸水被害を受けたことがありますか。(N=51)

項目	人数(人)	(%)
(1) あった	9	18
(2) なかった	41	80
無回答	1	2

問2 松ヶ谷川の流域でこれまで家屋への浸水被害がありましたか。(N=51)

項目	人数(人)	(%)
(1) あった	7	14
(2) なかった	43	84
無回答	1	2

問3 近年の奈美地区の状況に最も近いものをお選びください。(N=51、複数回答)

項目	人数(人)	(%)
(1) 田畑や身近な緑が減ってきた	9	18
(2) 管理されていない田畑や空き地が増えてきた	18	35
(3) 山林が荒れてきた	36	71
(4) 廃屋や空き地が目立ってきた	13	25
(5) 周辺の農地などで、住宅がぼつぼつと建つようになってきた	10	20
(6) 建物の老朽化や密集化が進んでおり、倒壊、火災の拡大など、災害時の影響が心配される	2	4
無回答	4	8

問4 奈美地区には自主防災組織(防災クラブ、防火クラブを含む)が結成されていきましたか。(N=51)

項目	人数(人)	(%)
(1) はい	12	24
(2) いいえ	9	18
(3) わからない	30	58

問5 奈美地区には、市役所の防災担当からの情報が伝達される拡声器が備えられた防災行政無線が整備されていきましたか。(N=51)

項目	人数(人)	(%)
(1) はい	13	25
(2) いいえ	13	25
(3) わからない	25	50

問6 奈美地区で避難訓練が実施されたことがありますか。(N=51)

項目	人数(人)	(%)
(1) ある	17	33
(2) ない	20	39
(3) わからない	14	28

問7 災害時に自力で避難が困難な災害時要援護者（高齢者、身障者等）の避難対策を決めていますか。（N=51）

項目	人数（人）	（％）
（1）いる	7	14
（2）いない	27	53
（3）わからない	17	33

4．平成21年7月21日の豪雨災害時の状況をお教えてください。

問1 水害当日に大雨洪水警報が発表されていたことを知っていましたか。（N=51）

項目	人数（人）	（％）
（1）はい（付問1.1へ）	26	51
（2）いいえ（問2へ）	24	47
無回答	1	2

付問1.1 その情報をどこから知りましたか。（当てはまるものをいくつでも）
（N=26、複数回答）

項目	人数（人）	（％）
（1）テレビ	25	96
（2）ラジオ	5	19
（3）携帯電話	2	8
（4）防災行政無線	0	0
（5）広報車	1	4
（6）家族	4	15
（7）知人・友人	2	8
（8）その他	2	8

付問1.2 大雨洪水警報を聞いて、どう思いましたか。

項目	人数（人）	（％）
（1）大雨が降るとは思わなかった	6	23
（2）どこかで大雨が降るかもしれないと思った	14	54
（3）市内で大雨が降るかもしれないと思った	6	23
無回答	1	4

付問1.3 大雨洪水警報を聞いてどうしましたか。（当てはまるものをいくつでも）

項目	人数（人）	（％）
（1）何もしなかった	4	15
（2）テレビ・ラジオの放送に注意した	17	65
（3）川や側溝の様子を確かめた	12	46
（4）インタ・ネットや携帯電話で降雨状況を確認した	4	15
（5）その他	2	8

問2 水害当日に土砂災害警戒情報が発表されていたことを知っていましたか。(N=51)

項目	人数(人)	(%)
(1) はい(付問2.1へ)	7	14
(2) いいえ(問3)	42	82
無回答	2	4

付問2.1 その情報をどこから知りましたか。(当てはまるものをいくつでも)(N=7、複数回答)

項目	人数(人)	(%)
(1) テレビ	5	71
(2) ラジオ	2	29
(3) 携帯電話	0	0
(4) 防災行政無線	0	0
(5) 広報車	1	14
(6) 家族	2	29
(7) 知人・友人	0	0
(8) その他	0	0

付問2.2 土砂災害警戒情報の発表を聞いて、どう思いましたか。

項目	人数(人)	(%)
(1) 土砂災害が起こると思わなかった	3	43
(2) どこかで土砂災害が起こるかもしれないと思った	4	57
(3) 市内で土砂災害が起こるかもしれないと思った	0	0

付問2.3 土砂災害警戒情報を聞いてどうしましたか。(当てはまるものをいくつでも)(N=7、複数回答)

項目	人数(人)	(%)
(1) 何もしなかった	1	14
(2) テレビ・ラジオの放送に注意した	7	100
(3) 川や側溝の様子を確かめた	1	14
(4) 崖や斜面の様子を確かめた	1	14
(5) インタ-ネットや携帯電話で土砂災害警戒情報を確かめた	0	0
(6) その他	0	0

問3 家屋への浸水状況をお教えください。(N=51)

項目	人数(人)	(%)
(1) 浸水なし	12	24
(2) 床下浸水	19	37
(3) 床上浸水	14	27
(4) 1階水没	5	10
(5) 2階浸水	0	0
(6) 浸水なし	1	2

問4 当日避難しましたか。(N=51)

項目	人数(人)	(%)
(1) 避難した。(付問4.1へ)	31	61
(2) 避難しなかった。(問5へ)	20	39

付問4.1 避難した時間は何時でしたか。(_____ 時 _____ 分頃)(N=28)

時間	人数(人)	(%)
7時より前	1	4
7時~9時	1	4
9時~11時	0	0
11時~13時	6	21
13時~15時	3	11
15時~17時	6	21
17時~19時	8	28
19時~21時	3	11

付問4.2 避難したタイミングは何時ですか。(N=31、複数回答)

項目	人数(人)	(%)
(1) 災害が発生する前	4	13
(2) 家屋が浸水や土砂流入した後	16	52
(3) 市役所・消防等から避難勧告を聞いた後	13	42
無回答	2	6

付問4.3 避難した理由は何ですか。(N=31、複数回答)

項目	人数(人)	(%)
(1) 災害が起こるかもしれないと思ったから	8	26
(2) これ以上家に留まっていたら危険だと思ったから	14	45
(3) 避難勧告が発表されたから	13	42
(4) 家族内の話し合いから	4	13
(5) 隣人からの勧め	3	10
(6) 親戚からの勧め	0	0
(7) 消防団員・警察官等から説得されたから	4	13
(8) テレビ・ラジオで避難勧告を知ったから	0	0
(9) 防災行政無線の放送を聞いたから	1	3
(10) その他	2	6
無回答	2	6

付問 4.4 避難方法をお教え下さい。(N=31、複数回答)

項目	人数(人)	(%)
(1) 避難路を避難所に徒歩で行った	11	35
(2) 避難路以外の冠水していない道を通って避難所に行った	8	26
(3) 避難所に行けないので、近くの安全な場所に避難した	5	16
(4) 消防団員・警察官の支援を得て避難所に行った	2	6
(5) ヘリコプタ - による救出	3	10
(6) その他	2	6
無回答	4	13

5. 災害後の対応について伺います。

問1 あなたは避難所に避難しましたか。(N=51)

項目	人数(人)	(%)
(1) はい(付問1.1へ)	32	63
(2) いいえ(問2へ)	18	35
無回答	1	2

前問で「はい」と答えた回答者のみお答えください。何日間避難所に避難しましたか。

(N=32)

日数	人数(人)	(%)
数日	19	61
数日~1週間	5	16
1週間~2週間	3	10
2週間~3週間	1	3
1ヶ月以上	3	10

付問 1.1 避難所の運営はどうでしたか。(N=32)

項目	人数(人)	(%)
(1) 十分であった	15	47
(2) 普通	11	34
(3) 不十分であった	6	19

問2 行政の対応の速さはどうでしたか。(N=51)

項目	人数(人)	(%)
(1) 速かった	5	10
(2) 普通	12	24
(3) 遅かった	32	63
無回答	2	4

問3 復旧時における行政支援制度等の情報提供はどうでしたか。(N=51)

項目	人数(人)	(%)
(1) 十分であった	4	8
(2) 普通	17	33
(3) 不十分であった	28	55
無回答	2	4

問4 ボランティアの活動はどうでしたか。(N=51)

項目	人数(人)	(%)
(1) 十分であった	36	71
(2) 普通	10	20
(3) 不十分であった	4	8
無回答	1	2

市町村の災害時の情報伝達、避難勧告等の対応能力をどう評価しますか。(N=51)

項目	人数(人)	(%)
(1) 十分であった	5	10
(2) 普通	15	29
(3) 不十分であった	31	61
無回答	0	0

住民の災害時の自主避難や自主防災活動の対応能力をどう評価しますか。(N=51)

項目	人数(人)	(%)
(1) 十分であった	5	10
(2) 普通	26	51
(3) 不十分であった	19	37
無回答	1	2

6. 今後の水害対策についてお伺いします。

問1 水害時の避難では、冠水した道路を避難することが危険なため、自宅や近くの高台に避難する。

高所避難が検討されています。この避難方法をどう評価しますか。(N=51、複数回答)

項目	人数(人)	(%)
(1) 是非導入すべきである。	10	20
(2) 安全な高所を確認したところを指定すべきである。	31	61
(3) 慎重であるべきである。	9	18
(4) その他	2	4
無回答	4	8

問2 土石流・がけ崩れ・地すべり等の土砂災害に対する防災工事は、嘗々となされていますが、進捗状況は低い状況にあります。今後の防災工事の見通しはどうか。(N=51)

項目	人数(人)	(%)
(1) 整備の速さが速くなるであろう	16	31
(2) これまでと同程度の速さであろう	13	25
(3) 整備の速さが遅くなるであろう	17	33
無回答	5	11

問3 大雨警報の基となる気象予報の正確さはどうなると思いますか。(N=51)

項目	人数(人)	(%)
(1) かなり向上するであろう	16	32
(2) 少しずつ向上するであろう	21	41
(3) あまり現在と変わらないであろう	13	25
無回答	1	2

(7)「FMわっしょい176.7MHz」への情報
平成21年7月21日

8:00～

- 「牟礼柳川付近が増水、右田も増水。」
- 「丸久宮市店前、道路冠水により渋滞。」
- 「真尾にて床下浸水発生。」
- 「勝坂会館付近 河川氾濫。」
- 「国衙一丁目セブンイレブン付近 床下浸水発生。」
- 「本橋に行く道路の水位が50cmくらいあって、なかなか車が進みません。」
- 「華城地区、川が氾濫しそうです、側溝はすでにあふれています。」(スタッフ)
- 「真尾大歳神社裏山にて山崩れ発生。」

9:00～

- 「防府西高校 グランド付近 土砂崩れ。」
- 「中華そば吟前の交差点は信号機停電中。警察官の手信号。」(スタッフ)

10:00～

- 「大道付近一部停電。信号がついていないところがある。」
- 「華城小から旧国道2号に向かう鉄道高架下が、冠水で通行止め。」

11:00～

- 「西浦新世紀パチンコ店裏山崖崩れ発生。」
- 「セブンがある大道の交差点を秋穂に向かって走って行くと初めの信号が停電。県道25号？」(スタッフ)
- 「小野奥畑 土砂崩れ発生により家屋が埋没。」
- 「勝坂において 土砂崩れ。」
- 「国道2号線下り右田福祉センターの所の信号がついたり消えたりで危険。」(スタッフ)

13:00～

- 「真尾 大歳神社付近において土砂災害発生。家屋倒壊？」
- 「新橋付近、水の流れがかなり早く、河川敷まで濁流があふれています。」(スタッフ)

14:00～

「阿弥陀寺(山)から濁流。石や木材や土などが道路まで流れてきていて、通れません。現在地元の方々が、集まり土のう積み作業中。」(スタッフ)

「牟礼小、牟礼南小周辺の河川は氾濫はしていないが水位は高い。濁流がかなりの早さで流れている。周辺の水田から水が溢れ冠水しているところがある。」(スタッフ)

「三田尻アルクを」T方面へ少し行くと、その先通行止め。」(スタッフ)

15:00～

「大道、国道2号線の下の道はかなりの氾濫で金子植物園の建物が半分は水に浸かっている状態。」(スタッフ)

「冲高井交差点で山口方面はいけません。また土石流の一部は右田中付近まで達しています。」

16:00～

「大道の岩淵近くにある『横曽根川』の状態。」(スタッフ)

「大道小俣交差点は山口方面迂回の車で玉祖神社付近から渋滞。」

「大道横曽根川が決壊し、下流の田畑含む一帯が冠水。水深は2メートルはゆうに越える模様。

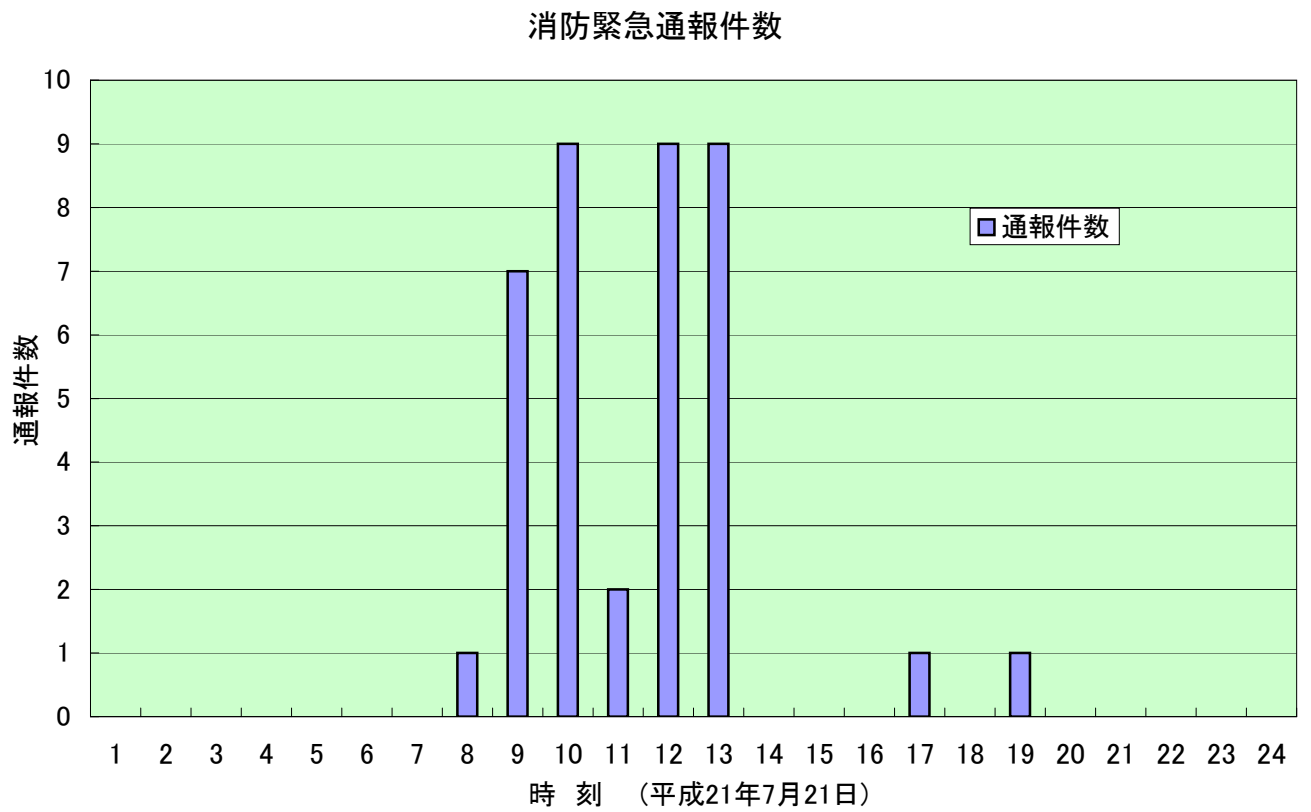
大道地域は東西南北に渡り広範囲で被害あり。小俣地区から切畑に抜ける道が陥没。」

「旧山陽道そば山崩れ。旧山陽道に至っては各地点で土砂が流れでて、車道および歩道は冠水。」(スタッフ)

21:00～

「またまた牟礼では雨が降りはじめました。旧国道より北ではところどころ道路が冠水し、溝や用水路・川と道路の境目がわからなくなっている。大平山も夕方見上げた時、見覚えのない山肌が見えたような気が。」

(8) 消防署緊急通報件数 (平成21年7月21日)



覚知時間	内 容
7:59	大崎 玉泉湖温泉南の水路氾濫(119番 玉泉湖温泉関係者)
8:04	松崎町 床下浸水のおそれ(119番 一般市民)
8:14	真尾 大歳神社 川の氾濫と床下浸水(携帯119番 一般市民)
8:27	勝坂窯付近の河川氾濫、床下浸水(携帯119番 一般市民)
8:31	国衙一丁目 国交省南、床下浸水・低地浸水(119番 一般市民)
8:41	牟礼今宿一丁目 ハイツ泉東河川氾濫、床下浸水(119番 一般市民)
8:44	富海野田 鮎児川氾濫(119番 一般市民)
8:45	佐波二丁目 床上浸水(119番 一般市民)
9:07	千日一丁目 昭和パックス南 道路冠水のため避難補助(119番 一般市民)
9:10	向島小田 土砂崩れ(119番 一般市民)
9:18	大道 防府西高校北土砂崩れ(119番 防府西高校関係者)
9:25	華浦二丁目 鞠生幼稚園 落雷により給湯器から煙の発生(119番 幼稚園関係者)
9:36	新田 合同運送でオイルピット浸水により油流出(携帯119番 一般市民)
9:40	中関 浄福寺裏山が土砂崩れ(119番通報 通報者不明)
9:42	真尾 普明寺墓地付近の土砂崩れにより住家に土砂流入(119番 一般市民)
9:58	勝間三丁目 パチンコジャンボ北 床下浸水(携帯119番 一般市民)
9:58	華城公民館西アンダーパスに車両が3台水没(119番 一般市民)
10:15	上右田 矢筈ゴルフクラブ土砂崩れ(119番 一般市民)
10:51	石が口 床下浸水(119番 一般市民)
11:00	西浦汐合 パチンコ新世紀西山崩れ(119番 一般市民)
11:01	奈美下 床下浸水(119番 一般市民)
11:27	奥畑 住家進入口土砂崩れ(119番)
11:38	浜方 山口三菱前電柱火災(119番 一般市民)
11:45	緑町マンション北床下浸水(119番 一般市民)
11:48	鈴屋 河川氾濫 障害者の避難誘導要請(119番 一般市民)
11:50	奈美 松ヶ谷団地 山崩れ(119番 一般市民)
11:50	国衙三丁目 旧国道2号線冠水 付近床下浸水(119番 一般市民)
11:53	勝坂 第二勝坂橋南で通行車両2~3台が土砂崩れで埋没(119番 一般市民)
12:08	勝坂 国道262号線旧勝坂商店付近 消防車、救急車、隊員(13人)が土石流被災(携帯119番 現場隊員)
12:10	東松崎町 周辺冠水による不安通報(119番 一般市民)
12:12	上右田 田ノ口 本因寺南土石流で孤立(119番 一般市民)
12:15	奈美 土石流により2人被災(119番 一般市民)
12:28	真尾 ライフケア高砂裏の川が決壊しそうなため屋上へ避難させている(119番 高砂職員)
12:31	真尾 ライフケア高砂浸水 避難困難(119番 高砂職員)
12:42	真尾 ライフケア高砂入所者屋上に避難中 消防車は進入不可のためへり要請(119番通報 ライフケア高砂職員)
12:43	高井神里 住民が足を負傷(119番 一般市民)
12:48	江泊 避難要請(119番 一般市民)
16:25	右田剣川で人が流されている(一般線 市民)
18:22	高井神里 救急要請(携帯119番)